

# 大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



68

2013年(平成25年)12月20日発行



# CONTENTS

就任のご挨拶	理事長就任の挨拶	理事長 浜岡 純治…… 3
在学生へのメッセージ	最近思うこと	教務部長 教授 浦田 秀仁…… 4
	お願いとお知らせ	学生部長 教授 三野 芳紀…… 5
	ミスマッチを無くす	キャリアサポート部長 教授 天野富美夫…… 6
	「知のひろば」案内 2013	図書館長 教授 高岡 昌徳…… 7
大薬祭 2013	Power of Music—第48回大薬祭に思う—	学生部長 教授 三野 芳紀…… 8
	第48回大薬祭「Power of Music」を終えて	大薬祭実行委員長 板東 正和……10
特待奨学生表彰	第9回特待奨学生表彰	学生部長 教授 三野 芳紀……11
市民講座	平成25年度市民講座を終えて	市民講座委員長 教授 松村 人志……12
公開教育講座	平成25年度公開教育講座	公開教育講座委員長 教授 高岡 昌徳……13
FD委員会	FD活動の現状	FD委員長 教授 辻坊 裕……14
研究室の紹介	生体機能診断学研究室……………	15
	製剤設計学研究室……………	16
	薬物治療学Ⅱ研究室……………	17
関連施設の紹介	学校法人 大阪薬科大学附属薬局	薬局長 小川 賢億……18
国際交流基金海外派遣事業	カナダ・バンクーバー医療研修ツアー—平成25年度国際交流基金海外派遣	
	アドバイザーのコメント	環境分子生理学研究室 准教授 佐久間 覚……19
	国際交流基金助成事業報告書	4年次生 山崎 隆未……19
		3年次生 野々垣早利美……21
	アドバイザーのコメント	生化学研究室 准教授 井上 晴嗣……23
三大学医工薬連環科学教育研究機構	三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況(その5)	准教授(特任) 銭田 晃一……24
学生相談室	学生相談室だより	学生相談室相談員 西田 裕子……25
事務局だより	総務課……26 経理課……29 入試課……30 学生課……31	
	キャリアサポート課……36 教務課……36 図書 情報課……37	
大学・同窓会共催学術講演会	第2回大阪薬科大学学術講演会 in 東京……………	39
薬用植物の紹介	ウンシュウミカン(ミカン科)	薬用植物園長 教授 谷口 雅彦…巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012(平成24)年4月1日より  
2019(平成31)年3月31日



薬研(やげん)

漢方薬の薬種を細かく砕くための、舟形で中がくぼんだ金属製の器具  
— 本学資料展示室所蔵 —



## 理事長就任の挨拶

理事長 浜岡 純治

井上通敏前理事長が平成25年7月23日の理事会において、病気による体調不良を理由に辞意を表明されたことを受けて、9月9日に開催された理事会で新理事長に選任されました。大阪薬科大学という歴史と伝統のある大学の理事長に選任されて、改めて責任の重さを痛感しています。

井上前理事長は、矢内原元理事長が急逝された後を受けて、平成23年10月に理事長に就任されましたが、それ以降、中期計画の策定、大阪医大との法人統合や地域中核病院との連携強化などの事業を強力なリーダーシップを持って推進してこられました。それだけに病気により任期途中で退任を余儀なくされたことについて、大変残念な思いでおられると推察いたします。後任となった私としては、前理事長が推進されてきた事業を仕上げていくことが当面のミッションであると考えています。

振り返りますと、私は平成20年6月より本法人の理事を約5年半務めてまいりました。その間矢内原元理事長、井上前理事長という二人の理事長にお仕えしましたが、お二人が、それぞれに異なるスタイルで法人の運営を行われるのを目の当たりにする機会を持ったことは、私にとって非常に貴重な経験でした。私自身はお二人のような、医学、薬学における専門的な知見は持ち合わせていませんし、学校法人の運営についてもこの5年半の経験がすべてであります。しかしながら、金融機関で29年、製薬会社で11年勤務してきた中で培ってきた経験や判断力を生かして、お二人とはまた違うスタイルで本法人の運営に当たりたいと思っております。

大学、とりわけ薬科大学をめぐる環境は急速に変わろうとしており、本学もこれに的確に対応していくことが何よりも求められる状況にあります。理事、評議員、教学の皆さま方のお力添えをいただいて本学が将

来にわたって社会的に高い評価を受け、発展し続けることができるように、微力ながら取り組んでまいりたいと思っています。

私は、これまで大阪薬科大学のキャンパスには、幾度か足を運んだことがありますが、いつもA棟と食堂に行くだけでした。今回理事長に就任してキャンパス内を隅々まで歩いて感じたのは、広い敷地に事務棟、講義棟、研究棟、食堂・学生ラウンジ、グラウンド、薬用植物園などがバランスよく配置されており、学習する上では非常に恵まれた環境にあるということです。平成8年に松原市の河合から高槻市の奈佐原にキャンパス移転したからこそ、このような環境が実現できたことと思います。

ところで、学生の皆さんからすると、理事会といっても何をしているのか分かりにくいと思いますが、要するに皆さんが学習・研究活動を行う上で、最適な環境を整備するという役割を担っています。皆さんが本学で学習や研究活動を行う上で、困ったことや改善してほしいことがあれば、事務の方に提案してほしいと思います。事務の方で提案された内容を検討し、必要であれば教学にも諮った上で、予算措置が必要なこと、重要なものは理事会に上げてもらい、理事会の場で審議して、決定していきます。皆さんが勉学に励めるような環境の一層の整備に理事会は取り組んでまいります。

薬学教育が6年制になって3期目の卒業生が来年3月には社会に巣立ちます。1期、2期の先輩と合わせて6年制の評価が問われてまいります。本学の卒業生が各方面で活躍し、社会から高い評価を受けることを念願しており、理事会としても評議員会、教授会と一致協力して全力で皆さんを支援していきますので、学業にまい進してください。

## 最近思うこと

教務部長 教授 浦田 秀仁

### 食材偽装問題

最近、有名ホテルや飲食店の食材偽装が問題になっています。食材の偽装以外にも、クール便のずさんな温度管理、JR 北海道のデータ改ざん、大阪地検の証拠改ざんなど偽装問題は挙げるときりがありません。しかし、食材偽装がそれ以外の問題と異なっているのは、消費者の側にも考えるべきことはないだろうかという点です。もちろん、産地や品質を偽る方が悪いに決まっています。しかしこの問題は、中身、本質も判らず、或いは判ろうともせず、表示に惑わされてしまっているブランド信仰主義がもたらした結果とも言えるのではないのでしょうか。高級食材と表示されているものに対し「これはニセものだ!」と判る本物のグルメはどれだけいるのでしょうか。判らないなら始めから求める必要もないと思うのは私だけでしょうか。多くの人は、食品業界の、いや食品業界に限らず多くの場面でニセの情報や誇大表現に踊らされているように思えます。

### 情報洪水の時代

現在は色々なメディアを通じて様々な情報を容易に入手できます。しかし、その中には真偽の程が怪しいものや誇大な表現で注目を集めようとしているものが少なくありません。特に、インターネットは個人が自由にホームページを開設でき、書き込みサイトでは匿名で、極論すれば他人の名を語って無責任な情報を書き込むことすらできます。また、本学で定期試験前などに学生間に広がる噂もそれに類するものではないでしょうか。悪意の有無は別として、氾濫している情報のすべてを鵜呑みにするのは危険です。自分で正しい情報がどうかを判断して利用する必要があります。

### 知的好奇心

そうした情報洪水から身を守るにはどうすればいいのでしょうか。高校までは、学校や先生から課題を与えられ、与えられたことをこなせば「良い生徒」と見なしてもらえたと思いますが、そういう受動的な学び方・生き方では正しい情報を見極める能力はなかなか身につかないでしょう。近

世の自然科学系の学問は貴族や特権階級の道楽とも言えるものですが、自然現象や生命現象に対する理解を深めることは、単なる道楽にとどまらずヒトの知的好奇心を駆り立てるものであったからこそ大いに進歩・発展してきました。知的好奇心は、様々なことに対してなぜだろう?と疑問を持ち、筋道を立てて明らかにしていこうとするマインドです。“豊富な知識に基づく自らの冷静(理性的、論理的)な判断力”が情報洪水に惑わされず正しい情報を見極める上で重要です。このような積極的情報収集力や論理的判断力は知的好奇心によって培われるものだと思います。

### 学ぶことの目的

去る11月19日(火)に6年次生の特別演習・実習発表会が開催されました。2年間、研究に携わることで、その面白さや、いい結果が出た時の喜びを感じた人も少なくないのではないのでしょうか。それまで、英語論文を読むことなど考えられなかった人でも、自分の研究テーマに関連した論文はワクワクしながら読んだ人もいでしょう。また、大勢の聴衆を前にしての発表など考えられなかった人でも、自分が出した研究成果を学会で発表したくてウズウズした人もいのではないのでしょうか。研究に積極的に取り組んだ人ほど、その喜びも大きかったはずで、これこそ知的好奇心の実践だと思います。

普段の授業科目の勉強は、目的が「試験に合格すること」にすり替わっており、本来の学ぶことの面白さを体感している学生が少ないように思えるのが残念ではありません。学生諸君が、様々な事柄に対して知的好奇心を持ち、情報洪水に溺れることなく医療人として成長していくことを願い、また、授業にも知的好奇の目を持って出席することで、学問に対する関心をより一層高めていただければ無上の喜びです。



11月19日に開催された6年次生の特別演習・実習発表会



## お願いとお知らせ

学生部長 教授 三野 芳紀

在学生の皆さん、如何お過ごしでしょうか。皆さんは将来、薬剤師等の立場で社会に貢献できる立派な医療人になるため、大学生活をエンジョイしつつも、学業に興味をもち且つ真摯な態度で勉学に取り組んでいると思います。クラブ活動や遊びも含め熱意をもって行動し、各自の夢を叶えとともに、一生の友人をたくさん作ってください。

学生部は、そのような皆さんを応援したいと思っています。まず、健康面についてです。「タバコは百害あって一利なし」と言います。受動喫煙の健康リスクが問題になっていますが、今、タバコを吸っていない人でも、過去の喫煙、特に若いときの喫煙習慣が後になって大きく影響してきます。本学は平成24年度からキャンパス及び周辺を全面禁煙にしています。学生部としては、皆さんが将来的に健康リスクを抱えてしまう喫煙習慣を身につけないように極力指導していきたいと思っています。

マナーの問題をお話したいと思っています。まず、バスでの乗車マナーです。「お年寄りに席を譲らない」、「大声でうるさい」とかの苦情が寄せられています。そのような学生が一人でもいると本学の学生みんなが乗車マナーを守らないと勘違いされます。将来、薬剤師として医療の分野に身をおく学生として、お年寄り、障害者など、弱者の方々への心遣いは特に大事です。大薬の学生として恥ずかしくないような乗車マナーを是非守って頂きたいと思っています。一人の心無い態度が大薬薬大の全体のイメージも悪くしてしまいます。このような、バスの乗車マナーに関する注意は後期の最初の授業において十分行いましたが、同様の苦情は余り減っていません。一般乗客からの苦情は主に帰路のバス通学時に集中しています。授業や実習で疲れ果て、ホッとして仲間たちと乗るバス内でつつい盛り上がり

てしまう気持ちは分からないではありません。しかし飽くまでもスクールバスではなく乗合いのバスであることを自覚してください。

学生部としても、学生の皆さんに注意ばかりしているわけではなく、何らかの方法で学生の通学環境を改善したいと考えており、平成26年の4月から本学専用の貸切バスの運行を計画しています。これに先立ち、11月18日から12月20日の約1ヶ月間の試験運行を行いました。色々な問題点が浮かび上がってきています。皆さんもこの試験運行中、感じたことを遠慮なく、我々に率直な意見を聞かせてください。できることは前向きに検討したいと思っています。この貸切バスのシステムがうまく定着すれば、皆さんはゆったりと座って友人と話しながら、摂津富田駅まで帰ることができ、疲れも吹っ飛び、次の日の授業に集中することが可能になると思います。本学の弱点の1つである、バス通学の改善を積極的に進めていく所存です。

ここからは、私の個人的な考えですが、留年生が多いのも大学にとって大きな問題です。私は今の留年生を半減することを目指しています。と言いましても、勉強するのは学生諸君です。当然のことですが、教育のレベルを下げるわけにはいきません。皆さんは、各先生方が適切に設定したハードルを死に物狂いでクリアするしかありません。努力してください。再試験を欠席するなんて「何をか言わんや」です。下位年次再試験も軽く考え過ぎです。私の理想は留年生を半減することだと言いましたが、前期の試験結果から、今年は残念ながら、このままでは昨年と比べ留年生は1.5倍に増加しそうです。どうか後期は気合を入れ直して、真面目に勉強してください。真面目に勉強できない(する気にならない)理由があれば、正直な気持ちを伝えてください。

大阪薬科大学は、学生諸君の大学です。



## ミスマッチを無くす

### 「就職におけるミスマッチを無くす」

キャリアサポート部・課では昨年度より、「就職におけるミスマッチを無くす」を掲げ、学生たちが希望し、それぞれの適性になかった職場に就職することができ、そこで満足して十分に力を発揮することができるよう、さまざまな取り組みをしてきました。全学年に対するガイダンス、シンポジウムや職種紹介学内企業セミナーを繰り返し開催することにより、学生たちが自分の潜在能力に気づいてそれを育み、適性を活かすことができるように指導して参りました。5年次生に対する個人面談では、全員が将来の進路について考え、キャリアサポート部委員会の教員と相談することで、キャリア形成に対する具体的な考え方が徐々になってきます。また新しい試みとして、昨年から実施した「全5回のMR講座」に続き、「全3回の開発職講座」を企画致しました。学生の進路選びの一助であり、就職活動の実践サポートに繋がればと思います。

このように、本学のキャリアサポート活動は、多くの人々や企業・医療機関、そして行政による支援を受け、一人ひとりの学生が「社会に貢献する感性」「自己研鑽する努力」の大切さを身につける、大変重要なものだと思います。これからも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



キャリアサポート部長 教授 天野富美夫

### 「キャリアサポート資料室を使いましょう」

本学のキャリアサポート資料室は、薬学系の大学の中ではスペースと設置された機器や資料の充実は日本一だと思います。一例をあげれば、面接対策用のビデオカメラシステム、大型スクリーン、大型液晶テレビ・ブルーレイレコーダーなどAV機器を常設しています。先程の「MR講座」「開発職講座」はここで実施されています。

この資料室は、キャリアサポート専用のスペースで講義や試験に使用されることはなく、常時必要とする学生が使用することができます。卒業した学生に確認してみると、このキャリアサポート資料室を就職活動時に上手く活用した学生が、卒業後の就職先に対して満足度が高いという結果が出ています。

自分の将来のキャリアに関して不安や心配を感じた時があれば、C棟1階ロッカー室の前にキャリアサポート資料室はありますので、まだ一度もキャリアサポート資料室に入ったことが無い人はぜひ一度訪ねてみてください。皆さんの将来がそこにあります。



キャリアサポート資料室

5年次生の「個人面談」

## 「知のひろば」案内 2013

図書館長 教授 高岡 昌徳

本学の図書館には、教科書、参考書、学術雑誌、自然科学系図書や教養図書など、多くの紙媒体資料が所蔵されています。このような印刷物は教育・研究に不可欠な情報資源であり、これらの資料を収集、蓄積、提供していくことが「知のひろば」である大学図書館の基本的な役割です。また、時代とともに各種電子媒体資料やネット情報が増加の一途をたどっており、本学の図書館でも学生や教職員が必要とする正確な電子情報資源へのアクセスを保証することが責務となっています。現代のインターネット社会においては、情報検索を支援するためのサービスが数多く存在していますが、情報データの質と量は多種多様であり、これらをどのように選別して組み入れていくかが図書館の重要な課題となっています。本学では10月1日付で従来の図書課と情報システム管理支援室が統合され、新たに図書・情報課が設置されました。これを機に、電子ジャーナルやオンラインデータベースなどへのアクセスを支援するための的確なサービスや情報機器、情報回線をより充実させることが可能となってきました。

このような取り組みとは別に、図書館が学生の学習を支援することも重要な課題であります。最近では、学生達が自主的に学習を進めていけるように、図書館が「ラーニング・コモンズ」という共同学習スペースを提供する大学が増えています。本学の図書館でも学生の皆さんに向けた新たなサービスを付加していく準備を進めています。

## ラーニング・コモンズ

図書館では、4階のAV利用室を改修するとともに、新規のDVD、BDレコーダー、液晶テレビやタブレット端末を購入し、小さいながらも「ラーニング・コモンズ」という共同学習スペースを提供する予定です。まずは、このスペースを学生の外国語学習に役立てていきたいと考えています。英語担当教員であるスミス



朋子先生は、学生から「どのように英語を学習すればよいか」と尋ねられることが多く、そのような時は、多読とインターネット上の学習を勧めているようです。現在、スミス先生が推薦する多読リーダーズの蔵書数を増やすとともに、電子媒体資料をタブレット端末で多読や多聴ができるように準備を進めています。また、「ラーニング・コモンズ」のインターネット環境を整備して、このスペースから優良英語学習サイトにアクセスできるようにする予定です。

## 学生選書

図書館では、学生や教職員から新規希望図書に関するアンケートをとり、定められた基準と予算のもとで、採択可能なものを随時購入してきました。それに加え、昨年度から「学生選書」という企画を実施しています。この企画は、学生の皆さんが自らの目線で図書を選定することによって読書推進を図り、本に対する愛着を深めることを目的としています。購入希望図書のリクエストは、あくまでも「個人の読みたいもの」ですが、この企画では自分だけでなく、他の学生にとっても「読みたい！」と思えるような本を選び、推薦理由を付けて書棚に配置することになっています。本年度は、通算して2回目（5月6日～8日）と3回目（9月30日～10月4日）の「学生選書」を学内のブックセンターで行いました。回を重ねるごとに参加人数も増え、第3回は17名の学生が参加しました。現在、学生が選定した書籍の一部が推薦理由とともに3階の「学生選書」コーナーに並べられています。それ以外にも、背表紙に黄色のシールを貼り付けている図書がこれまでに学生から選ばれたものです。なお、来年度春期に行われる4回目からは、ブックセンターを利用する従来方式に加え、「インターネット選書」を行う予定にしています。このような機会を利用し、あなたが選んだ本を図書館に置いてみませんか？





Power of Music

—第48回大薬祭に思う—

学生部長 教授 三野 芳紀

11月1日(金)～3日(日・祝)の3日間、恒例の大薬祭が開催されました。あいにく最終日は小雨になったものの、全体的にはほぼ晴天に恵まれ、3日間で7千人近い入場者が訪れ、大変盛況な学園祭となりました。

主催の学友会の皆さん、そして見回り役、審査委員等、ご協力頂いた多くの先生方にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。

特に、大薬祭の実行委員の皆さんには心から「お疲れ様でした」と言いたい。多くの学生たちが企画・準備から始まり大薬祭本番、そして後片付け等も含め、一つの目標に向かって全力で協力し合って大薬祭を成功に導いた姿に感動を覚えました。今年は学生部長として、色々なことを実感しました。大勢の学生の協力だけでなく、育友会はじめ、同窓会等多くの方々からの協力・支援を受けることで、この大薬祭をうまく成功に導くことができたのでしょうか。また、それらの協力、支援が得られたのも学生たちが大薬祭の成功を目指して、真摯に取り組んでいる熱意が伝わったの結果と思われ、学生たちの熱気に感服しました。

なお、今年は夏に起こった福知山花火大会での爆発事故もあり、模擬店での事故に特に注意をし、学友会の委員の皆さんとも細心の注意をしていたのですが、初日の模擬店でプロパンガスの点火ミスがあり、1名の学生が軽い火傷を負いました。来年の大薬祭においては同じような事故を起こさないように更なる徹底を

望みます。

以下に主に写真で紹介するイベントは、各イベント担当のアイデアが充分発揮されて、素晴らしいパフォーマンスでした。野外ステージ、体育館、学生ホールで日ごろの練習の成果を如何なく発揮していました。芸達者な出場者もさることながら各イベントでの司会の皆さんはとても慣れており、プロはだしの司会ぶりには特に感心しました。色々なところで演奏される音楽はパワフルで、周りの皆さんもノリノリで盛り上がった学園祭となりました。野外ゲリラライブも新しいアイデアでした。

特に印象に残ったものを紹介します。

土曜日の夕刻に体育館で行われた4人組のバンドの“THE BACK HORN”のライブも盛り上がりました。実行委員を中心とした警備係の的確な指示と全席指定席にしたお蔭で大きな混乱もなく、盛況のうちにライブを終了できました。The Back Hornが将来大物に成長していくのが楽しみです。ちなみに、私の時代のライブ(その当時は文化祭;会場も大阪市内のホールを使用)は加藤登紀子で、その年のレコード大賞新人賞に輝きました。

最終日を飾ると言われる「薔薇祭」は正直あまり期待をしていなかったのですが、1番手のサッカー部のダンスをみて、認識を新たにしました。好感を持てる内容でした。もちろん以前から聞くようなかなり際どい内容のクラブもありましたが、藤田学長出身のクラブだけあって、ぎりぎりの線で留まっていました。その他、全員の動きが微妙にずれるというバレーボール部の(迷)演技も印象的でした。何と云っても、圧巻は最後に登場したフットサル同好会、テニスサークルレポリユーション、陸上競技部の3チームでした。す



ベストヒットカップル



Daiyaku Collection



男の娘の俺がこんなに可愛いわけがない

All in ダンスサークル発表







科学実験教室



学内風景



DANCE BATTLE 2013

2日目



THE BACK HORN LIVE

べて完璧なほど息の合ったダンスで、どこで、どのような時間を利用して練習しているのか不思議でした。まじめに国家試験の勉強をしているのか若干心配になりましたが、2, 3人は、EXILEにでも入れそうで、薬剤師資格は必要ないかもしれませんね（笑）。優勝したテニスサークルレポリューションは本当におめでとう。練習の成果が十分に表れていました。2位のフットサル同好会は個人的には歌舞伎を取り入れた点、高く評価しました。陸上競技部は洗練されたスマートさで、これも高く評価しました。本業の陸上競技も同様に熱意をもって練習してくれることを顧問として望むところです。審査委員で選考する“学長賞”の選考も接戦でありましたが、年長組の学長と私の票で、女装

のダンサーの硬式野球部が選ばれました。来期も熱い接戦を期待します。

今年の大薬祭は、全編、ビートの効いた音楽が流れ、まさにテーマである「Power of Music」に恥じない内容でありました。同時に、この成功は多くの学生の協力の賜物であり、「Power of Students」であったように感じました。大薬祭実行委員長の板東君はじめ、実行委員の皆さん、縁の下の力持ちというか、あまり目立たないところで各自の責任を果たしていた学生の皆さんに個人的には特に感謝したいと思っています。本当にありがとうございます。今回の経験を来年の大薬祭の中心となる後輩に繋げていってください。

3日目



薔薇祭



こまつ LIVE



Who is best シンガー？



ライブ喫茶

## 第48回大薬祭 「Power of Music」を終えて

大薬祭実行委員長 板東 正和

僕が大薬祭実行委員会に所属して3年の年月が過ぎようとしています。2年間は実行委員の一員として頼まれた仕事をこなす日々でしたが、3年目である今年、今度は実行委員長としての仕事を任されました。つまり今までは頂いた仕事をこなす側でしたが、今年は僕がみんなを引っ張っていかなければならない立場になったということです。でもそれは同時に、自分のやりたいことや考えを活かして大きなものをつくること出来るということでもありました。僕は大役を任された責任感の他に、一生できないであろう貴重な経験をさせていただけることに多大なる喜びも感じていました。4月、まず始めの仕事は今年の学祭のテーマを決めることでした。幹部で話し合い昨年のアーティストライブの成功から今年の学祭を音楽のフェスティバルにしようというみんなの強い思いで、「Power of Music」に決まりました。このテーマには大薬祭に関わる全ての人が、音楽によって笑顔になって欲しいという思いと、一人ひとりの個性を大切にしていきたいという思いが込められています。実際僕自身、ご来場いただいたお客様にはもちろん、模擬店を出している在学生、そして学祭を成功させるために長い間一緒に頑張ってくれた実行委員のみんなの心に、一つでも多くの素晴らしい思い出が残ってくれば良いなと強く思っていました。テーマはすんなりと決まりましたがそこから苦悩の連続で、いかにテーマに沿った楽しい学祭を行うかというのは本当に難しいものでした。しかし実行委員みんなが、それぞれの個性でアイデアを出し合い徐々に形になっていきました。



大薬祭実行委員会のメンバー

その中でも例年と大きく違う試みは、2日目、3日目に行った野外ゲリラライブで、これは学祭に関わる全ての人に様々な場所で音楽を楽しんでもらうためと、毎年寂しいグラウンドを活性化したいという思いで行ったものでした。この時点で予算も少なかったため、ストリートライブなどをされているアーティストの方々に声をかけ、全組無料で出てもらえることが決まりました。この頃から自分たちの考えたイベントなどが少しずつ形になっていく姿に、本番が近づく緊張感を覚えていました。打ち合わせを重ねついに本番、大薬祭には笑顔が溢れていました。様々な場所で音楽が流れ、野外ゲリラライブでは想像を遥かに超える観客の数、アーティストと一緒に踊る一般の来場者の方や大薬の学生、グラウンド全体が一体となっていました。

2日目のTHE BACK HORNライブも観客1,000人が一体となった素晴らしいアーティストライブで、すべての人が笑顔になっていました。

3日目のこまつライブ、カラオケ大会なども、野外ステージでは僕が知る3年間で一番と言っているくらい最高の盛り上がりを見せていました。3日目の最後のミーティングでは想像以上の大成功の嬉しさもあって歓喜の涙が溢れていました。実行委員の後輩たちは9月から学祭まで毎週土曜日に集まって準備を手伝ってくれ、当日も3日間とも朝7時から夜遅くまで頑張ってくれました。幹部は朝5時半から集まって模擬店のテント張りや、深夜になるまで自分の仕事をこなしてくれました。引退したはずの先輩までも朝早くからきて1日中後輩である僕たちのためにサポートしていただき、毎日みんなに炊き出しを用意してくれて感謝の気持ちでいっぱいでした。ご来場いただいたお客様からも、楽しかったという声を多数いただきました。僕が前に立って引っ張るはずの学祭だったのですが、みんなの頑張りによって逆に関わることが出来たような、素晴らしい学祭でした。130人という多くの、最高のメンバーがいたからこそ今年の学祭は成功したのだと心から感じています。こんな僕に付いてきてくれてみんな本当にありがとう！僕は実行委員長として今年の学祭に一片の悔いもありません。

最後になりましたが、理事長はじめ、学生部長、諸先生方、学校関係者の皆さま、毎年援助金をいただいている同窓会、育友会の皆さま、その他にもここには書ききれないほどの方にお世話になりました。このような形で大変恐縮ではございますがこの場をお借りしまして一言お礼を言わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。



## 第9回特待奨学生表彰

学生部長 教授 三野 芳紀

まず最初に平成25年度の栄誉ある特待奨学生に選出された学生の皆さんに、心より敬意を表します。

特待奨学生は、本学の奨学生規則の第2章にあるように、「学業成績が優秀な学生」と規定されています。そこで、学部学生に関しては、前年度の学業が極めて優秀な学生を対象にし、また勉学の態度や学生生活における態度等々、総合的な観点から教務部並びに学生部において慎重かつ公正に審議を行い、選出しました。また、大学院学生については、「特に成績優秀な学生または有望な研究を行っている学生」という観点から大学院小委員会において厳正な選考が行われ、その結果を受け、大学院委員会において最終決定致しました。いずれの場合も、学業成績だけではなく、色々な面で他の学生の模範となりうる学生であると確信していま

す。特待奨学生の皆さんには、その名に恥じないように、これからもますます精進して頂きたいと思います。

なお、表彰式は、藤田学長、指導教授、アドバイザーなど臨席のもと、学部生および大学院M1、D1については5月23日(木)、大学院M2以上については10月24日(木)に挙行され、学長より奨学金目録の授与があり、訓示を賜りました(学外実務実習の関係で5月8日(水)にも一部挙行しました)。

最後になりますが、特待奨学生の皆さんには、卒業後も表彰式のことを決して忘れないでほしい。将来困難に遭遇したときはこの表彰式のことを思い出し、そしてどんなに頑張ってきたかを振り返ることでいかなる困難にも打ち勝つことができるでしょう。本学の代表としてのご活躍を心から祈念します。



学部特待奨学生表彰式(5月8日)



学部・M1・D1特待奨学生表彰式(5月23日)



大学院学生による研究発表会



大学院特待奨学生表彰式(10月24日)

### 平成25年度 大阪薬科大学特待奨学生 表彰者一覧

学部学生(最優秀者1名、特別優秀者2名、優秀者4名の順)

2年次:大平 明香 曾我部絵里 篠山 淳美 小川 瑞葵 宇野佐和子 辻本 拓真 山下 力也

3年次:中谷 優花 山口 万穂 平山 聡子 今中あゆみ 松原 菜美 艇 英彰 麩東 愛可

4年次:稲葉 桂子 中塚 侑吾 斎藤 美央 伊藤 拓哉 稲田 顕慶 山中 萌 大津 誠行 南側 千聡

5年次:天川 佳洋 松原 州平 山崎 映美 若松 亮 堀 朱津美 山本 恵美 中野 翔太

大学院学生

博士前期課程1年次:沼田 雅博 博士課程1年次:徳留健太郎

博士前期課程2年次:水口 裕登 博士後期課程2年次:森重 雄太 水木 晃治

## 平成25年度市民講座を終えて

市民講座委員長 教授 松村 人志

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様方に医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動の一環として企画・開催しているものです。お蔭様をもちまして、本学近隣を中心に、関西地域住民の方々の年間行事として定着し、この度第36回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

さて、今年度の市民講座は、昨年度に引き続き『西洋医学と東洋医学シリーズ』と題しまして、西洋医学及び東洋医学それぞれの立場から、病気のとらえ方、向き合い方などについてご講演をいただきました。このたびの第36回は「健康と長寿のための食を築く」というサブタイトルで、10月5日(土)に開催いたしました。当日は289名(学生含む)もの方々にお越しいただきました。さらに講演の後、参加者の皆様方と共に議論を深めるべくパネルディスカッションを催しました。食という身近なテーマということもあり、聴衆の皆様方はとても熱心に講演を聴いておられました。熱のこもったご講演をいただきました奥野仙二先生、篠原明德先生のお二人には、心より御礼申し上げます。また、「薬用植物園の見学」、「くすりの相談室」及び「図書館、資料展示室の特別公開」も例年通り開催し、多くの皆様方にご利用いただきました。ご参加いただきました皆様方、そしてご協力いただきました先生方や学生の皆様方に心より御礼申し上げます。

さらに、本学では高槻市の都市文化の振興とまちの活性化に協力するために、様々な高槻市の事業に参画しており、本年度も「市内5大学リレー市民講座 夏休み子ども大学」及び「高槻市大学交流センター事業市民講座」を右記のとおり開催いたしました。夏休み子ども大学では18組の親子の皆様にご参加いただきました。子ども達は坂口実先生、芝野真喜雄先生、田中智先生のご指導により、光学顕微鏡や電子顕微鏡を利用して、薬用植物園で集めた花や葉などを、好奇心で目を輝かせながら観察していました。他方、大学交流センター事業市民講座では、71名の市民の方々が、大喜多守先生の明快な講義を聞きながら熱心にメモを取っておられました。

来年度も、皆様方が関心をお持ちのテーマについて、最新の情報を発信して参りますので、この大阪薬科大学市民講座委員会の諸企画を楽しみにしていただきたいと思います。

## 平成25年度市民講座 (敬称略)

第35回 平成25年6月1日(土) 13:00~16:10

『西洋医学と東洋医学シリーズ

-第3回 認知症に備え、認知症に取り組む-

1. アルツハイマー病の早期診断と創薬

大阪大学大学院 医学系研究科精神医学教室

教授 武田 雅俊

2. 漢方の力で、認知症と生きる

医療法人 竹村医学研究会 小阪産病院

医長 針田 伸子

3. パネルディスカッション

第36回 平成25年10月5日(土) 13:30~17:10

『西洋医学と東洋医学シリーズ

-第4回 健康と長寿のための食を築く-

1. メタボ対策は食事から

特定医療法人 仁真会 白鷺病院

副院長 奥野 仙二

2. 伝統医学の食養生

明德漢方内科 院長 篠原 明德

3. パネルディスカッション

## 平成25年度高槻市大学交流センター事業関連

市内5大学リレー市民講座 夏休み子ども大学

平成25年8月3日(土) 9:30~12:00

『ミクロの世界をのぞいてみよう』

大阪薬科大学 生体機能解析学研究室 講師 坂口 実

大阪薬科大学 生薬科学研究室 准教授 芝野 真喜雄

大阪薬科大学 生体機能解析学研究室 助手 田中 智

会場：大阪薬科大学 (C404実習室)

平成25年度高槻市大学交流センター事業市民講座

平成25年11月30日(土) 14:00~15:00

『生活習慣病の予防と治療』

大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室

准教授 大喜多 守

会場：クロスパル高槻(高槻市立総合市民交流センター)

7階 第6会議室



奥野 仙二 先生



篠原 明德 先生



パネルディスカッション



## 平成25年度 公開教育講座

公開教育講座委員長 教授 高岡 昌徳

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足して以来、本年で31周年を迎えました。これは全国薬系大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者も極めて多数にのぼっています。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、2005年度からは「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点について、討論の場を提供してきました。平成25年度は「循環器関連領域」、「小児関連領域」、「アレルギー関連領域」を話題に取り上げ、それらの領域に関する最新の情報から、新しい治療薬の作用と副作用まで、幅広く討論してきました。

本年度は、初回となる第63回公開教育講座を5月25日(土)に開催しました。まず、本学循環病態治療学研究室教授の林哲也先生にご講演いただきました。次いで、高槻赤十字病院循環器科部長の大中玄彦先生に臨床の立場からご講演いただきました。会場である梅田スカイビルには、本学の卒業生を含む300名余りの参加者が集い、活発な討論が行われました。

続いて、第64回公開教育講座では、「小児関連領域をめぐる最近の話題」として、大阪医科大学小児科講師の瀧谷公隆先生と大阪府立急性期・総合医療セ



第64回公開教育講座

ンター薬局長の室井政子先生に、ご講演いただきました。

参加者は426名にのぼり、会場は満員で立錐の余地もありませんでした。これは、4月から薬剤師として勤務されている卒業生が多く参加されたことによるものと思われます。

本年度最後の第65回公開教育講座では、大阪医科大学耳鼻咽喉科教授の河田了先生から「アレルギー性鼻炎の臨床」について、本学製剤設計学研究室教授の戸塚裕一先生からは



第65回公開教育講座

「製剤設計と剤形の基礎」に関する最近の話題を取り上げていただきました。300名近くの参加者とともに、目から鱗が落ちる思いで、ご講演を拜聴することができました。

本学の公開教育講座は、日本薬剤師研修センターならびに日本薬学会近畿支部との共催であるとともに、大阪府薬剤師会ならびに大阪薬科大学同窓会の後援により開催されています。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

公開教育講座の詳細は本学ホームページ (<http://www.oups.ac.jp>) にて順次案内していますので、実務実習を終えた5、6年次の学生は言うまでもなく、新入生から4年次生も自己学習の場として大いに利用してください。

## 平成25年度 大阪薬科大学公開教育講座

第63回公開教育講座 平成25年5月25日(土)

「動脈硬化とアンチエイジング

～最新の薬物療法～」

大阪薬科大学 循環病態治療学研究室

教授 林 哲也 先生

「虚血性心疾患～急性期治療から二次予防へ～」

高槻赤十字病院循環器科 部長 大中 玄彦 先生

第64回公開教育講座 平成25年7月27日(土)

「授乳の生理、母乳と薬剤」

大阪医科大学小児科 講師 瀧谷 公隆 先生

「小児医療の特性と小児特有の服薬指導」

大阪府立急性期・総合医療センター

薬局長 室井 政子 先生

第65回公開教育講座 平成25年11月30日(土)

「アレルギー性鼻炎の臨床—薬物療法を中心に」

大阪医科大学耳鼻咽喉科 教授 河田 了 先生

「製剤設計と剤形の基礎

—添付文書中の添加剤を説明できますか?」

大阪薬科大学 製剤設計学研究室

教授 戸塚 裕一 先生

## FD 活動の現状

FD委員長 教授 辻坊 裕

FD（ファカルティ・ディベロップメント）は、主に個々の教員の授業内容・方法を改善するために、各大学、学部、学科等が組織的に行う研究・研修等の取り組みの総称であり、平成19年度の大学設置基準の改正を受けてすべての大学において義務化されているものです。本学もこれを受けて、平成19年度からFD委員会を設置し、教育活動の充実、および学習環境の整備のために努力を続けております。

FD委員会は、「授業に対する学生アンケート」、「公開授業（ピア・レビュー）」、「公開授業研究会」、および「FD講演会」などの活動を行っております。

まず、「授業に対する学生アンケート」は、原則すべての講義、実習、演習で実施されています。講義を評価するための質問内容は、次の7つに分かれています。

- (1) この授業はあなたの学習への取り組みを高めるものでしたか？
- (2) この授業の教え方・進め方は、あなたが内容に興味を持ったり、内容を理解したりするのに役立つものでしたか？
- (3) この授業は興味が持てるものでしたか？
- (4) この授業の内容は理解できましたか？
- (5) この授業についてあなたは予習・復習をしましたか？
- (6) この授業はシラバスに沿って行われましたか？
- (7) この授業を総合的にどのように感じましたか？

以上について、前・後期1回ずつ年2回のアンケートを実施し、その結果は集計後グラフ化し、各担当教員に配付されます。教員は結果や学生の意見に基づいて、次年度の授業の改善に繋がります。実習についても同様の手順でアンケートを実施しています。このような授業評価アンケートの全体的な結果は、本学のホームページに公表されています。また、学生は科目ごとのアンケート結果とそれに対する授業担当教員の所見を教務課カウンターで閲覧することもできます。

「公開授業（ピア・レビュー）」については、教員を有機・生薬系、物理・分析系、生物科学・衛生系、薬理・薬剤系+臨床系、および総合科学系に分け、前・後期にそれぞれの系で割り振られた教員の講義をFD委員も含む教員が参観し、評価するとともに、学生にも講義に関するアンケート調査をします。その後、授業参観教員による評価および学生アンケートに基づい

て、講義担当教員、授業参観教員、およびFD委員によって「授業研究会」が開かれ、講義方法、講義内容などについて活発な意見交換が行われます。「授業研究会」は、講義担当者のみならず、講義を参観した教員についても講義の改善に大いに役立っています。

教員による「授業研究会」の後、さらに学生も参加可能な「公開授業研究会」が開催されます。本年度は9月20日（金）16時50分からD棟302教室で学生参加のもと、実施されました。

「FD講演会」は、これまでに一度しか開催されておきませんが、平成25年度には、大阪大学薬学部教授であり、薬学教育評価機構 評価委員会委員長の平田 收正先生にご講演をして頂く予定です。演題は「薬学教育評価機構における基準に基づいたFD活動について（仮題）」です。教職員の皆様の奮ってのご参加を期待しております。

以上、本学におけるFD活動の現状について、簡単に述べさせて頂きました。

これまでは、教員が中心となって授業内容・方法を改善し、向上させる目的でFD活動を行ってききましたが、今後は大学を構成する教員、職員、および学生が協力して、組織的に教育の改善を行うことが必要であると思います。教育の主役が学生であれば、FD活動に学生が参画し、学生・職員・教員が協同して、学生目線からの授業改善を行っていくべきであると考えます。是非とも「学生FD委員会」が本学に組織され、FD活動に積極的に参画してくれることを切に望んでいます。そうすることにより、授業は学生と教員との協同作業のうえに成り立つことを教員はもちろんのこと、学生にも実感してもらえれば、授業の大いなる改善に繋がるものと思われま

FDとは、個々の教員の授業内容・方法を改善するための活動と考えられ、実際に多くの大学のFD活動は、この観点を中心に行われているように思われます。

一方、教育と研究の両面を求める大学では、教員を取り巻く教育と研究全体を改善するかなり広い活動をFDと定義する大学が多く見られます。本学のような教育と研究の両面を求める大学では、教育のみならず研究全体の改善および質の向上に向けての議論を始めてもよいのではないかと思います。

今後とも教員、職員、学生の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 生体機能診断学研究室

生体機能診断学研究室は、B棟2階、南側の端にあり、大学内のどこの場所に移動するにも便利な所です。当研究室は、高槻に移転後、第一放射薬品学から生体機能診断学に名称が変更になり、現在に至っています。現在のメンバーは、教員2名（大桃、平田）、学部生23名（6年次生13名、5年次生10名）となっており、他の研究室に比べれば少ないですが、それでも総勢25名の大所帯です。

研究内容は、分子イメージングと呼ばれる生体内で起こる様々な生命現象を、生きた状態のまま外部から分子・細胞レベルで捉え、体外から画像として観察し、得られた画像を基に様々な疾患の診断を行うために必要な分子イメージングプローブを開発しています。現在は、下記の2つのテーマを中心に研究を進めています。

### (1) 腫瘍発現分子を標的とする分子イメージング薬剤の開発

腫瘍の分子イメージングに基づく画像診断は、腫瘍に内在する様々な性質に関する情報を、イメージングという非侵襲的かつ全身検索可能な方法で評価する診断法です。この方法は診断だけでなく、多様な腫瘍の個性に見合った治療計画の策定、治療効果の予測や正確な判定など、個々の患者に対する個別化医療への貢献が期待されています。私たちの研究室では、腫瘍の分子イメージング用核医学画像診断薬剤の一端として、腫瘍細胞に過剰発現したシグマ受容体や上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ(EGFR-TK)、腫瘍血管新生

因子受容体チロシンキナーゼ(VEGFR-TK)などを標的とする放射性医薬品の開発研究を行っています。

### (2) 脳神経疾患の診断や解明のための分子イメージング薬剤の開発

シグマレセプターは精神病や、ジストニア、遅発性ジスキネジアなどの中枢性運動障害、神経変性、抗精神病薬の副作用による運動障害などの中枢性疾患や、カルシウムチャンネルなどと深く関連し、また脳神経保護作用を持つことが知られています。そこで、シグマレセプターを標的とする分子イメージング薬剤の開発は、脳神経疾患の解明や早期診断などに有効であると期待され、多くの注目を集めています。私たちの研究室では、シグマレセプターに対し高い選択性と親和性を有し、核医学画像診断に適用可能なインビボ分子イメージング診断薬剤としてこれまでに $[^{125}\text{I}]\text{o-BON}$ を開発してきました。

この他に、国立がんセンター、大阪大学、滋賀県成人病センターなどの当研究室の卒業生が在籍する研究機関や京都大学、浜松医科大学などと共同研究を行っています。これらの卒業生達とは、学会のたびに集まり、研究はもちろんのこと様々な情報交換を行っています。

普段の研究室の活動では、研究テーマ毎に5年次生と6年次生がペアになり、研究を進めており、2学年が一緒に実験することでスムーズに研究が進むだけでなく、学年の上下が隔たることなく楽しく過ごせていると思います。毎年、旅行などの沢山のイベントを自分たちで考え、行っています。卒後も定期的に集まり、絆を深めているようです。

(記：講師 平田雅彦)



### <所属学生のコメント>

私達、生体機能診断学研究室は大桃先生、平田先生の指導の下、癌診断薬の開発をテーマに毎日研究に励んでいます。研究室では合成班、生化班に分かれ、合成班が化合物の合成を行い、その化合物を生化班が、各種生化学実験、動物実験を行い、検証しています。研究が行き詰った時は、同じ班の人同士で話し合ったり、先生からのアドバイスを頂いたり

して一つずつ理解しながら取り組んでいます。また、私達の研究室では、同じ学年だけでなく先輩、後輩とも仲が良く、毎日楽しく研究に励んでいます。今年の夏には、研究室のみんなで一泊二日の白浜旅行に行き、海水浴やBBQ、花火などをして、とても思い出に残る旅行になりました。研究に対しても遊びに対しても全力で、メリハリがあり、人と人との関わり合いから成長できる研究室だと思います。

## 製剤設計学研究室

製剤設計学研究室は2012年4月に戸塚裕一が教授として着任し、新設されたばかりの研究室です。場所はB棟3階南側に存在し、新設した当初の研究室には実験機器はもちろん机やイスなど何もなく、まさにゼロからの立ち上げでした。その後、2013年4月に門田和紀講師と中代里美助手が着任し、現在は3名のスタッフ、社会人研究生1名（企業勤務）及び学部学生25名（5年次生：7名、4年次生：18名）が在籍し、研究活動を行っています。2012年度は研究できる環境を整えるために、スタッフ、研究機器、試薬などを入手することに奮闘し、今年度からようやく研究活動をスタートすることができました。実質的に研究室が稼働したのは2013年5月に入ってからであり、本誌ではこれから製剤設計学研究室にて展開していく予定の研究内容について簡単に紹介させていただきます。

#### (1) 有機ナノコンポジット形成現象を利用した機能性粒子設計

糖転移させた機能性食品添加剤が数ナノメートル (<5 nm) のナノコンポジットを水中で形成することを発見し、このナノ構造中に難水溶性化合物を組み込んだ、数ナノメートルのナノコンポジットを形成させれば、難水溶性の食品有効成分や医薬品の溶解性及び吸収性を大幅に改善できることを発見しました。この現象には、難水溶性医薬品と糖転移させた機能性食品添加剤との間に起こる相互作用様式が大きく影響すると考えられていますが、これまでに全く精査されていません。機能性食品添加剤と難水溶性有効成分からなるナノコンポジット形成を戦略的に活用すれば、難水溶性の食品有効成分を少量摂取するだけで、体内で高効率に活用可能な、次世代型特定保健食品の開発が期待されます。そこで、本年度から科学研究費に採択された「機能性ナノコンポジット形成に基づく次世代型特定保健食品の開発」のテーマをもとに研究を発展させ、機能性食品添加剤を最大限に有効活用するための網羅的探索から、データベースを作成し、有機ナノコンポジットライブラリーを構築して、難水溶性の有効成分を効率的に摂取するための機能性粒子設計を行う予定です。

#### (2) ナノ構造体を利用した肺到達型機能性複合粒子設計

高度分岐環状デキストリンは安全性が高いうえに、様々な薬物を網目状の構造内に取り込むことが可能であり、高度分岐環状デキストリンに取り込まれた薬物粒子は、体内で素早く放出され、薬効を発揮する可能性が示唆されています。また、高度分岐環状デキスト



リンがナノサイズの均一な構造を有しているために、ナノスフェアから構成される、粒子径のそろった肺到達性の高い微粉末 (<5  $\mu\text{m}$ ) を調製できると期待しています。近年問題となっている新型インフルエンザなどの新興感染症の出現や耐性黄色ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌といった耐性菌の増加等を対象として、高度分岐環状デキストリンを戦略的に利用し、肺到達性が高く、組織障害性の低いハイブリッド型ナノ粒子の調製を行い、最終的には病態マウスを用いたハイブリッドナノ粒子の薬理学的効果の検証を行う予定です。

また、肺到達性が高い機能性粒子を設計するために、吸入した経肺粒子が口腔内から気道・気管支を通過し、肺に到達するまでの数値シミュレーションを行う予定です。粉末経肺製剤設計のために、数値シミュレーションを利用して実施している報告はほとんどなく、粉末経肺粒子の特性によって気道における沈着や肺に到達するまでの軌跡などが分かれば、肺到達性が高い微粉末経肺粒子の開発を支援することが可能となります。将来的には肺に到達した薬物と生体膜とに関する相互作用について分子動力学法による計算を行う予定です。

本年度より研究室を稼働させたばかりで、成果を紹介するには至りませんでしたが、今後研究室一体となって成果をあげていきたいと思っています。

#### <所属学生のコメント>

製剤設計学研究室は、2012年4月にできたばかりで1期生は院生を含めて9名しかいませんでした。実験器具はもちろん、机やイスなども自分たちでそろえるところから始めました。研究も手探りではありますが、先生方がいつも優しく相談にのってくださるのでとても楽しみながらやっています。

今年は2期生が18名も入り、一気ににぎやかになります。今年、「やるときはやる、メリハリのある研究室」をモットーに皆で頑張っていこうと思います。



## 薬物治療学Ⅱ研究室

薬物治療学Ⅱ研究室は平成23年10月1日付で新設された研究室です。平成24年10月に高野美菜助手が着任し、平成25年4月から大学院生1名、学部5年次生7名を迎えて本格的に活動を開始しました。

生命を維持するために食物を消化吸収して排泄する「腸」は体の中で最も起源が古い重要な器官です。消化器領域を中心とする疾患の病因・病態生理や薬物の効果・作用機序を基礎実験と臨床研究の双方から明らかにし、病気の治療や予防に貢献できる、薬学と医学とを結ぶ研究室を目指しています。

基礎研究では大阪医科大学との共同研究で、私達の体を守るためのバリアーとして重要な胃粘液分泌（胃酸・薬物から胃を保護）や気管線毛運動（異物・細菌除去で肺を保護）について細胞レベルで細胞内情報伝達機構を解明し、胃粘膜病変や呼吸器疾患の予防・治療法の開発を視野においた研究を行っています。臨床研究ではアルコール依存症・生活習慣病などの疾患や高齢者に特有な疾患に対して、消化器を中心とした病変・病態の特徴や原因を統計学的に解析する臨床疫学研究を行っています。平成26年度から糖尿病合併高脂血症の病態を検討する新プロジェクトを立ち上げます。糖尿病ラットで小腸絨毛過形成（吸収面積増加）と脂肪吸収過剰を見出しており、消化・吸収面から糖尿病やメタボリック症候群の病態を解明し、治療・予防へ応用できる研究を目指しています。

私達の研究室では、研究活動を通じて薬物の専門家として科学的に思考ができると同時に、医療人として病める人を思いやることのできる臨床薬剤師の育成を目的としています。平成26年度は9名の5年次生が参加する予定で、益々活発に、賑やかになりそうです。学生の希望に添った研究テーマを選択し、1人1テーマで研究指導しており、各人1回の学会発表を目指しています。イタリア料理でワインをかたむけ、少しリッチな気分を味わいながら、和気あいあいとお喋りを満喫する集いなども楽しみの一つです。



研究室はB棟6階で、高槻市から大阪市街までを一望できる明るい研究室です。雨上がりには見事な虹のアーチに目を奪われ、夜景も絶品です。興味ある方はぜひ覗いてください。熱意と気力のある学生、好奇心と探求心の旺盛な学生、明るく笑顔のすてきな学生、皆さん大歓迎です。（記：教授 島本史夫）

### <所属学生のコメント>

私達の研究室では院生1名、学部生7名の学生が所属しています。院生はがん専門薬剤師を目指し、学部生4名は大阪薬科大学、3名は大阪医科大学で研究を行っています。大阪薬大の4名はアルコール依存症などのデータを集め、各々にテーマを与えられて統計的に解析を行い、病態の危険因子や相関を見つけ出します。興味のある英語の論文を読んで発表する勉強会や研究結果の報告会など全員で学びながら研究を行い、学会発表も積極的に行って見聞を広めています。大阪医大の3名は生理学教室中張隆司先生のご指導のもと、各々にテーマを与えられて研究に勤しんでいます。日々実験を行い、解析し、結果について話し合い、課題が見つければさらに実験を重ね、生理作用のメカニズムの解明に取り組んでいます。企業と提携して行う実験や学会・論文発表があり、国内外の第一線で活躍する研究者、企業の方や大阪医大の学生との交流もあって、とても刺激があります。一人ひとりが、各々の研究に責任をもって取り組むので、大変ではありますが、とてもやりがいがあります。

昨年度立ち上がった研究室のため、設備も新しく、毎日気持ちよく研究に取り組んでいます。平成25年度の学生が研究室1期生なので、後輩が大勢入ることで益々活気があふれる研究室になると期待しています。

## 学校法人 大阪薬科大学附属薬局

薬局長 小川 賀偉

大阪薬科大学附属薬局（以下、本学附属薬局）は阪急高槻市駅前、大阪医科大学病院西隣の現在地に、

「医薬分業の推進等、医療を取り巻く環境の変化も踏まえ、本学は全国に先駆けて3ヶ月の長期病院実習（臨床薬学実習）と2週間の短期病院実習（医療薬剤学実習）を実施し、現場重視の薬剤師の養成に努めてきた経緯がある。その中で、臨場感あふれる薬剤師教育を更に推進するために、平成11年11月に附属薬局を設置する運びになった。」

として開局し、現在に至っています。

当時、6年制の薬剤師養成課程も長期実務実習もまだ具体化されていない状況の中で、極めて先見性に満ちた大胆な試みであり、投資であったと思われます。以来14年が経過しましたが、学外に本格的な附属薬局を持っている大学は全国的にも未だ多くありません。近畿地区では大阪薬大以外に学外の附属薬局を持つ大学はありません。

学生の中には、早期体験学習で来局された方も大勢いると思います。また、11週間の薬局実務実習を本学附属薬局で受けられた学生もいると思いますが、薬剤師養成課程が4年制から6年制に移行し、長期実務実習が義務づけられたなかで、附属薬局として期待される役割も変わりつつあります。

本学附属薬局の現況を紹介します。

薬局の構造は

- 1F：受付、待合、薬剤交付カウンター、服薬指導室、トイレ（障害者用含む）、駐車場（5台収容）
  - 2F：調剤室、見学室、倉庫、クリーンルーム、DI室
  - 3F：事務室、研修室、スタッフルーム等
- です。

受入処方せん枚数は約27,000枚／年で大阪医大病院の処方せんが約85%を占めています。

在庫医療用医薬品数は約1,900品目、そのうち後発医薬品が約350品目、一般用医薬品数約100品目、医薬部外品、医療・衛生材料など約100品目です。勤務薬剤師数は9名で、内訳は常勤薬剤師7名（うち非常勤講師1名、特任講師1名、本学助教1名、特別研修薬剤師1名）、非常勤薬剤師2名で調剤業務や近隣薬局からの分譲依頼への対応などを行っています。

本学へは、医療薬剤学I講義 後期週1回、臨床導入実習 前期週2回、調剤学実習 前期週2～3回、薬学総合演習 後期 週2回、OSCEや市民講座のお薬相談会にも本学附属薬局薬剤師がそれぞれ出向し、薬局業務で得る最新の知見を学生の教育や実習に還元しています。

5年次の長期実務実習は近畿地区調整機構を通じ、現在のところ、年間10名程度を受け入れています。

以上が本学附属薬局の現状概略ですが、本年2月、四国4大学（徳島大、徳島文理大、同香川校、松山大）の担当者が本学附属薬局を見学に来られました。目的は四国4大学がそれぞれ附属薬局を立ち上げるためとのことでした。また、東京薬大が複数の大規模附属薬局を設置するというニュースや明治薬大が附属薬局開設予定という報道もありました。今後、全国的に薬学部附属薬局が増えていくことは確実な状況です。なかでも、東北薬大が東北厚生年金病院を買い取り、東北薬科大学附属病院を持つことになったというニュースは世間を驚かせました。薬科大学・薬学部が研究・教育・実習実践の場として附属施設の拡充や提携先との連携を図る動きはますます盛んになると思われます。

本学附属薬局は、来年度、本学並びに地域薬剤師会と連携し、在宅患者用注射剤の混合調製にクリーンルーム施設の共同利用を実施する予定です。また、薬局製造販売医薬品や学校薬剤師活動などで研修室を用いた実務実習支部単位での講習会なども計画しています。

大阪薬科大学の優れた特長の一つである附属薬局が本学の薬学研究・教育、実習において何ができるか、何をすべきか、本学とのさらなる連携を図りつつ、一步一步、前進していきたいと考えています。



附属薬局外観



附属薬局1階



## カナダ・バンクーバー医療研修ツアー——平成25年度国際交流基金海外派遣

環境分子生理学研究室 准教授 佐久間 覚

平成25年度国際交流基金助成事業を利用して、アドバイザー学生である4年次生の山崎隆未君がカナダ・バンクーバーへの短期医療研修ツアーに参加しました。山崎君自身がインターネットなどを利用してこのプログラムを探し出し、企画会社に往復航空券などを手配することで実現させました。山崎君は卒後、薬系外資系企業への就職を希望しており、今のうちに海外の医療機関を見学、体験してみたいという強い意志が感じられます。帰国後に感想を尋ねると、国外の医療機関を見学でき、貴重な経験であったと目を輝かせて話し

ていました。3年次生のころから私のところに成績などを取りに来る際に時々話をしていた希望（夢）を今回実現できたことは、アドバイザー教員として率直にうれしく思います。

このような実体験は、山崎君にとって、薬学のみならず広く勉学に対するモチベーションを高める好材料になったと感じます。山崎君の体験した内容やコメントを読んで、かなりハードな本学のカリキュラムのなかであっても、海外研修等への参加に興味のある学生さんは考えてみてはいかがでしょうか。

## 国際交流基金助成事業報告書

4年次生 山崎 隆未

今回、私は大阪薬科大学の国際交流基金助成を受けて、カナダ・バンクーバーで行われた短期海外医療研修プログラムに参加しました。

このプログラム（表）では、日中はバンクーバーで医療通訳サービスを展開している Trans Med の日本人通訳スタッフが市内の各医療機関への案内や説明を行い、その後 Trans Med のスタッフが日常業務で使われる医療単語を中心に医療通訳講座を実施しました。

1日目（8月19日）はメインランドクリニックにて医療通訳者体験を行いました。医療通訳者は保険の確認、カルテの準備などをした後に、患者とともに診察

室に入り医師の診断内容を患者に通訳して伝えます。その後資料を作成し、整理する仕事をしていました。書類は英語で書かれている場合が多く、また特徴のある字で書かれた医師のカルテを読み、書類を分類することもあるため、今までの英語の知識だけではとても通用しないと感じました。

2日目（8月20日）からは Trans Med の日本人の通訳スタッフである Nae Watajima さんに市内の各病院や施設を案内していただきました。最初に FALSE CREEK SURGICAL CENTRE という外科の開業クリニックを見学しました。レントゲン室やCTなどの装置は日本のクリニックとほとんど同じでしたが、清潔感やスタッフの対応などはとても良く、公立病院とは違いすべて自費診療となるので主に高所得者が多く来院するとのことでした。

次に VANCOUVER GENERAL HOSPITAL に行きました。ここは公立の総合病院で、ブリティッシュ・コロンビア州立大学の附属病院でもあります。この病院は脊髄に関する治療が特に有名で、脊髄の研究、治療などの情報が掲示板に貼られていました（写真1）。また、写真2は FALSE CREEK SURGICAL CENTRE の外観です。

3日目（8月21日）はダウンタウンにある眼科の医院へ行きました。この医院もブ

表 プログラム日程

時間	13:00-15:00	15:00-17:00	18:30-20:30
1日目	メインランドクリニック見学	コーストメディカルクリニック見学	医療通訳入門プログラム
2日目	私立病院見学	総合病院見学	医療通訳入門プログラム
3日目	専門医見学	大学病院見学	医療通訳入門プログラム
4日目	薬局見学	医療システムガイダンス	医療通訳入門プログラム



写真1



写真2

ライブートクリニックですが、ブリティッシュ・コロンビア州ではレーシック手術は保険でカバーされないため医師の腕前や施設のサービスによってクリニックの人気が左右されるようです。その後 PHARMASAVE というカナダでは有名なチェーン展開する調剤薬局を訪問しました。この薬局では pharmacist の Nelson さんと technician の Lee さんが勤務しており、ネルソンさんはこの薬局の経営者でこの店舗のほかに3店舗の薬局を運営しているそうです。薬局で一番驚いたことは、処方せんに疑わしい内容がある場合に日本で実施される疑義照会が行われず、薬剤師の判断で処方せんを書き直すことができ、書き直した処方内容を処方医に送信することで、処方変更が可能であるという点でした。また、錠剤の受渡しは、日本で見受けられる PTP 包装のシート錠ではなくプラスチック製の小さな小瓶に詰められており、患者は薬剤師の説明に従い服用するのが一般的なようでした。Nelson さんは、どこの国でも医療事故は起こることであり、それをいかに防ぐのかを考えることも医療者の使命だと話され、とても印象に残りました。

4日目(8月22日)の最後の訪問先は St. Paul's Hospital という総合病院でした。カナダでは、受診する際、まずホームドクター(かかりつけ医)、もしくはメインランドクリニックやコーストメディカルクリニックのようなウォークインクリニックと呼ばれるクリニッ

クの総合医の診察にかかります。どちらも専門性は低いです。全身を診察できるドクターがおり、そのドクターの判断によって、より専門的な治療が必要とされた場合には総合病院の各診療科にかかることができます。

この病院では、性感染症の分野が有名であり、特に HIV の分野に特化しているようですが、病院の総合案内にはそのような表記はなく、訪れてみると他科とは少し雰囲気違ったように思いました。

医療システムガイダンスでは、Nae さんに日本とカナダの生活の違いや医療制度の違いなどをより詳しく教えていただきました。

また、メインランドクリニックのバックヤードにある医薬品を見せてもらおうと、そのほとんどが外資系の製薬会社でしたが、その中に日本の製薬会社も入っており日本人として海外で日本の医薬品を目の当たりにするととても誇らしかったです。

・終わりに(医療研修プログラムを終えた感想)

私は、以前から将来はどのような進路に進んでも海外で働いてみたいという夢がありました。しかし、これまで海外に行った経験はなく、自分でもどの程度その夢を実現させたいのかわかりませんでした。今回は1週間という非常に限られた期間しかなく、今回のことだけで海外での生活がすべてわかった訳ではありませんが、より海外で働いてみたいという思いが強くなりました。

医療分野において海外で活躍するためには医学、薬学の知識はもちろん英語も一般の外国人の方よりも専門単語などを知らなければ仕事はできません。

そのためには今よりさらに勉強しなければならないということを経験旅行で痛感させられました。

将来どのような職に就くかはまだわかりませんが、自分の夢を実現させ働くためには、英語を含め勉強がとても大切だということを経験まであと2年を残した4年次生で知ることができて本当に良かったです。この経験を活かして残りの学生生活を有意義なものにしていきたいです。



メインランドクリニック  
院長ブライアン医師と



3年次生 野々垣早利美

## はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成25年8月10日から9月1日にかけてカナダ・バンクーバーを訪問しました。滞在期間中は一般の語学学校に通いながら Medical Interpreter の講座を受講しました。また、ホームステイをすることで多くの人と交流をもち、医療に関係した知識を得るだけでなく異文化に触れる貴重な経験を重ね、充実した3週間を過ごしました。

## 1. Medical Interpreter Introduction Program

バンクーバーにある Mainland Clinic というクリニック内で行われている医療通訳のイントロダクションプログラムに参加しました。医療通訳とは、診察・検査・薬局などの医療現場において外国人患者と医療従事者とのコミュニケーションを成立させる通訳のことであり、文化による不安を取り除き、適切な医療サービスを受けられるように手助けをするといった役割があります。



Mainland Clinic

## • Healthcare System in BC

カナダでは、病院は主に救急患者の処置や専門的な検査または手術を行い、外来患者の治療は原則として行いません。住民は日本のかかりつけ医に当たるファミリードクターをそれぞれ持っており、ファミリードクターは必要に応じてレントゲンや採血等検査の指示、

専門医や総合病院の紹介、処方箋を出したりします。このようにカナダでは、専門医は専門的処置が必要な患者だけを診察し、軽度の病気はファミリードクターが診察するといった合理的な医療制度をとっており、この制度のもとでは、ファミリードクターが患者の日常の身体状況をよく把握しているために、病気の進行や副作用・合併症等を早期に発見できるメリットもあります。また、ファミリードクターを持っていない人や海外からの旅行者に向けた医療機関として、ウォークインクリニックと呼ばれる診療所があります。

## • Mainland Clinic

日本語通訳の常在するクリニックであり、予約からすべて日本語で対応、旅行保険を持っていればキャッシュレスで医療を提供してくれるクリニックで、カナダ在住日本人のファミリードクターとして、また旅行者ウォークインクリニックとして利用されています。この医療通訳講座の受講者の中にも実際に利用された方がおられ、安心して医療サービスを受けられたとおっしゃっていました。

## • 医療通訳講座



医療通訳講座風景

Mainland Clinic で実際に医療通訳者として勤務されている Yoshie さんを先生として、解剖学から医療専門用語、医薬品、診療科ごとの疾患の症状の表現の仕方など、多岐にわたり勉強しました。少人数制の講座であるため、小さな疑問でもその場で質問することが可能で、納得いくまで理解を深めることができました。また普段、現場でよく使われる単語やフレーズ、英語独自の言い回しの違いなども教えていただきました。

・ロールプレイング



ロールプレイング

週に一度のロールプレイングの授業ではネイティブの先生にお越しいただき、受付での対応、診察室においての通訳練習を、実際に使用されているクリニックの受付や診察室を利用して行いました。実際に日本語を母語としない方と行うことで、通訳をしている感覚を味わうことができ、また、なかなか理解しにくい類似した言葉、たとえば痛みの種類など、感覚的な使い分けの違いなども知ることができました。

・ゲストスピーカー

実際にバンクーバーで活躍されているカイロプラクターの Dr. Shimizu と心理カウンセラーの Yukiko 先生にゲストスピーカーとしてお越しいただき、お話を伺う機会もありました。それぞれの専門分野について英語での講義があり、Yukiko 先生は過去にあった一人の患者の症例についてお話しいただき、Dr. Shimizu の講義ではカイロプラティックの概要やデモンストレーションをも見せていただきました。



カイロプラティックの施術室

2. ILSC

バンクーバーに数多くある語学学校の中でも特に規模の大きな学校の一つで、在籍する学生の国籍制限が

設けられているために多国籍の学生がバランスよく集まる学校です。キャンパス内では English only policy により、母語を使用することが厳格に禁止されているため、たとえ日本人同士であっても常に英語を用いる環境がつけられています。



Communication Class

・ Communication Class & Conversation Class



私の在籍したクラスにはブラジル、メキシコ、台湾、韓国など、さまざまな国籍を持つクラスメートがいました。また、それぞれ年齢も職業や専攻も様々なバックグラウンドをもっており、その環境の中で英語によるコミュニケーションを核として文法や発音、語彙の習得を交えた授業が行われました。もちろん個人の性格による点ではありますが、日本人と比べて他の国籍の人々はとても積極的で、見習うべき姿勢としてとても印象に残っています。

3. 街から感じたこと

街中には「London Drug」や「Shoppers Drug Mart」といったチェーンのドラッグストアの店舗がたくさんあり、それらのなかには大きな調剤カウンターがありました。また、大型スーパー「Safeway」中にも同様の大きな調剤カウンターが設けられており、薬剤師が





常在しているため、あらゆる場所で OTC だけでなく処方箋をも手軽に薬剤師の管理・指導のもとで医薬品を購入できる環境ができていました。

また、街中にはサプリメント専門店が多くあり、前述のドラッグストアやスーパー内においてもサプリメントコーナーも大きく設けられていました。

滞在先のホストファミリーにおいても、2歳の子供から60代の Grandmother まで日常的にサプリメントを多量に摂取しており、健康を維持するための身近な手段としてとらえられているようでした。

## おわりに



今回の研修を通して、多国籍の人々と交流をもつことで、背景に持つ文化の違いによって、考えを共有することの難しさを感じました。たとえば、日本人同士

であれば上手く英語で表現できない場面でも、意図していることが簡単に伝わるのに対し、ラテン系の人に対してはいくら正しい英語表現で伝えても、なかなか理解してもらえない場面が何度かありました。移民の地であるカナダはさまざまな人種が住んでいる国であり、私のホストファミリーも、もともとはフィリピンからの移民でした。そのため英語の発音に少し独特のアクセントがあり、時折聞き取りづらく、また生活習慣の違いから言いたいことを理解してもらえず、学校での会話以上に難しく感じることもありました。アジア人同士では比較的文化や英語の発音の癖も似ていることからコミュニケーションを取りやすいものの、その中でもやはり価値観の違いは感じました。しかし、多くの時間を共有すればするほど共通の認識ができ、最初はまったく意見を交わすこともできなかった人との間でもコミュニケーションができるようになるということも大きな発見でした。これらの経験から、語学力の向上はもちろんのこと、相手を理解しようとする姿勢が、コミュニケーションの第一歩であり、人と接するうえで語学力と同等に重要であると私は考えます。今回、得られた貴重な経験によって、薬学に関係した医療英語を学ぶだけでなく、医療通訳という立場から勉強することで、医療について興味が深まっただけでなく、人との関わり方についても深く考えることができました。国際交流基金の助成により、このような貴重な機会を設けていただいたこと、大変感謝しております。

### —担当アドバイザー（生化学研究室 准教授 井上晴嗣）からのコメント—

野々垣さんは、向学心が高く、語学力の向上だけではなく、医療通訳の研修を通じて医療制度や医療コミュニケーションを国際的観点から学びたいと考えており、助成金の応募を推薦しました。今回の体験によって、彼女が将来的に薬剤師として国際的医療コミュニケーションの場で活躍してくれることを期待しています。

三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その5）

准教授（特任） 銭田 晃一

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構は「分子から社会までの人間理解」を目指し、医療や福祉の分野で活躍できる人材教育と社会還元に取り組んでいます。教育への取り組みとして「教育課程の構築と教育環境の整備」があり、その目的のために、“遠隔講義システムによる双方向講義”が行われています。今回はその概要を紹介したいと思います。

三大学の双方向講義は本学では基礎教育の選択科目になっています。双方向講義配信科目（右の表）には本学の時間割上、受講出来ない科目もありますが、前期は月曜の5限に三大学共通科目である「医工薬連環科学」、後期は月曜の4限に大阪医科大学の「医学概論」、5限に関西大学の「バイオメカニクス」、金曜の5限に関西大学の「福祉工学概論」を受講頂きました。なお、前期の「医工薬連環科学」の受講者は2年次生、後期の受講者は殆どが1年次生という状況です。また、本学からは前期に大桃先生の「応用放射化学」と芝野先生の「生薬学2」を、後期に芝野先生の「生薬学1」と高岡先生の「機能形態学1」を配信しています。遠隔講義システムをご覧になられた学生さんいらっしゃるかと思いますが、本システムを用いることにより、関西大学、大阪医科大学の講義室をリアルタイムで結ぶことが可能です。双方向科目の中でも、前期の「医工薬連環科学」は本学のシラバスにも掲載されていますが、このシステムを大いに活用し、大阪医科大学（医学部、看護学部）、大阪薬科大学（薬学部）、関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）の教員がそれぞれ4コマから6コマを担当し、大阪医科大学は人の誕生から死に至るまでを、本学は薬のシード発見から医薬品(製剤)ができるまでを、関西大学は工学のそれぞれの専門領域をオムニバス形式で自大学の教室で講義をしながら、他大学の学生さんにも同時中継をしました。また、後期の「福祉工学概論」では関西大学の先生は講義中に本学の学生と工学部の学生双方に質問を投げかけるなど、双方向ならではの場面もあり、とてもユニークな講義になっています。

現在、医療現場では多職種の連携が求められるため、相互理解ができる能力がますます必要になってきます。是非、他大学の講義科目にも興味を持って頂き、広い視野と知識を身につけて頂きたいと思います。卒業に必要な基礎教育選択科目の単位を既に取得された方々

も、双方向講義を聞いてみませんか。

(双方向講義配信科目)	
関西大学	
前期	微生物学 4
後期	栄養科学、機能性食品、社会環境適応材料 バイオメカニクス、福祉工学概論
大阪医科大学	
前期	健康科学概論
後期	医学概論
大阪薬科大学	
前期	生薬学 2、応用放射化学
後期	生薬学 1、機能形態学 1
三大学共通科目 (オムニバス)	
前期	医工薬連環科学





## 学生相談室だより

学生相談室相談員 西田 裕子

今年も年の瀬が迫ってきました。今年一年を振り返ると、様々なことがありました。比較的暗い話題が多かった近年の中では、富士山が世界文化遺産に登録されたり、2020年のオリンピックが東京で開催されることが決定されたりして、明るい大きな話題もあった一年だったのではないのでしょうか。

さて、学生相談室の今年一年を振り返ってみると、相談内容は様々ですが、やはり一番多いのは対人関係の問題ではないかと思います。友達ができない、居場所がないといった相談もあれば、無理やり作った友達に合わせるのに疲れた、仲の良かった友達と最近うまくいかない、先輩との付き合いがしんどい、彼女と別れたといった相談もあります。これらはどれも対人関係の問題で、学生だけでなく誰もが日常的に感じている問題のように思います。

対人関係の悩みにぶつかった時、一度考えてみてほしいことがあります。それは「心の境界」というものです。物理的、身体的な境界はパーソナルスペースと言い、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。満員電車に乗ると乗客同士が密着しパーソナルスペースを侵されているので、多くの人が少なからず不快に感じます。では、それが心の境界だとどうなるのでしょうか。例えば行きたくないサークルの飲み会に先輩から誘われて断れない時はどう感じますか。恋愛関係でも、相手に何とか好かれたいと努力しているのに振り向いてもらえない時はどうでしょうか。こうした悩みの時は心の境界が曖昧になり、ストレスになっている場合があります。心の境界は国境のように一定のものではなく、個人差も大きく、相手によって変化するものでもあります。そして何より目には見えないので、曖昧になっていたとしても気づきにくいのです。他者に自分の心の境界を侵されている時はもちろんですが、自分が他者を思い通りにしようと思って相手の心の境界に侵入してしまっている時も、思い通りにならずいらいらしたりすることがあります。こういった時は心の境界について少し意識してみてもどうでしょうか。今の問題はあなたの問題なのでしょうか、それとも相手の問題なのでしょうか。相手に自分の境界より中に入られ過ぎていませんか。また相手に近寄り過ぎて負担

になっていませんか。他者の思い通りになる必要はありませんし、他者を自分の思い通りに動かそうとすることも難しいことかもしれません。

学生相談室の一年を別の角度で振り返ると、4月に変化があり開室日が一日増えました。従来の火曜日、木曜日に加えて金曜日も開室しています。金曜日は時間もこれまでとは少し違って、18時まで開いています。学生相談室というどうしても特別な人だけが来るところと思われがちですが、決してそんなことはなく、全ての学生の方が利用できます。相談内容はどんな些細なことでもかまいません。相談しようかな、どうしようかな、と悩む前に是非ご来室ください。相談員は皆さんの学生生活を応援したいと思って待っています。

最後になりましたが、保護者の皆さま、教員の方々のご相談も受け付けております。お気軽にご利用ください。

## 学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。

川端康雄相談員  
(火曜日担当)小田佳子相談員  
(木曜日担当)西田裕子相談員  
(金曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00  
毎週金曜日 14:00～18:00

TEL：(072)690-1077 (直通)  
E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

## 《場所》A棟1階



## 総務課

## ■ 人 事

## &lt;大学関係&gt;

名誉教授（平成25年4月1日付）

馬場 きみ江

加藤 義春

配置換え（平成25年10月1日付）

高橋 正好

図書課長から図書・情報課長に配置換え

吉田 弘子

図書課課長補佐から図書・情報課課長補佐に配置換え

清水 信行

情報システム管理支援室係長から図書・情報課係長に配置換え

樽井 康員

情報システム管理支援室長の兼務を解く

客員研究員（平成25年7月1日付）

木村捷二郎

森 龍彦

（平成25年11月1日付）

芹川 忠夫

森本 茂文

招へい教授（平成25年11月1日付）

芹川 忠夫

## &lt;法人関係&gt;

評議員辞任（平成25年6月30日付）

松島 哲久

監事重任（平成25年7月31日付）

露口 佳彦

出水 順

理事長（理事）辞任（平成25年8月31日付）

井上 通敏

理事長就任（平成25年9月9日付）

浜岡 純治

評議員就任（平成25年9月19日付）

三野 芳紀

理事就任（平成25年10月26日付）

北村 幸彦

## ■ 海外出張

林 哲也 教授（循環病態治療学研究室）

出張期間：平成25年6月14日～6月19日

23rd ESH ヨーロッパ高血圧学会（イタリア）

春沢 信哉 教授（有機薬化学研究室）

出張期間：平成25年6月22日～6月29日

14th Tetrahedron Symposium（オーストリア）

田中 早織 助手（薬物治療学研究室）

出張期間：平成25年7月20日～7月29日

37th Congress of the International Union of Physiological Sciences（イギリス）

阪本 恭子 准教授（環境医療学グループ）

出張期間：平成25年8月2日～8月20日

ドイツ語教授法のスキルアップ・ドイツの薬学教育・生命倫理関連資料の収集（ドイツ）

加藤 隆児 講師（循環病態治療学研究室）

出張期間：平成25年9月21日～9月28日

13th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology での発表及び Young Scientist Committee 会議への出席（アメリカ）

春沢 信哉 教授（有機薬化学研究室）

出張期間：平成25年10月20日～10月24日

14th Tetrahedron Symposium-Asian Edition（韓国）

米山 弘樹 助手（有機薬化学研究室）

出張期間：平成25年10月21日～10月24日

14th Tetrahedron Symposium-Asian Edition（韓国）

## ■ 寄 付

井上 通敏 前理事長

本学教育研究活動への寄付金として300万円

（平成25年9月17日付）

## ■ 事務組織

図書課と情報システム管理支援室を統合して、図書・情報課とする

（平成25年10月1日付）

## ■ 大阪薬科大学研究振興基金

（平成25年6月7日より施行）

大阪薬科大学研究振興基金は、本学若手専任教員（助手以上で教授を除く50歳未満の者）が本学で行った研究成果の中で、特に優れた研究論文を発表した教員を顕彰し、更なる研究活動の発展を支援することを目的としています。

## ■ 職場体験学習の中学生を受け入れました

本学では、地域連携事業の一環として、毎年高槻市立阿武山中学校から職場体験学習の2年生生徒を受け入れています。今回は2名の女子生徒に平成25年9月11日（水）・12日（木）の2日間、本学の仕事の体験をしてもらいました。

生徒たちは、2日間、図書課と情報システム管理支援室に配属され、指導を受けながら1つ1つ丁寧に仕事をこなしていました。

この2日間の体験が実りあるものであり、生徒達の将来に大いに役立つことを期待しています。



## ■ 防災訓練

平成25年9月20日(金)に高槻市北消防署員立会の下、防災訓練を実施しました。

12時10分にB棟4階の研究室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、学生及び教員参加による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。

全ての訓練終了後、避難集合場所において、楠瀬防火・防災管理者及び同署員から注意喚起を含めた講評をいただきました。続いて、訓練用消火器を用いて消火活動の実演が行われました。



## ■ 第48回大薬祭 特別講演会

昨年度に引き続き、平成25年度大阪薬科大学同窓会ホームカミングデーの開催に併せて、本学と本学同窓会の共催により、大薬祭特別講演会を開催しました。同窓会会員の皆様をはじめ、本学学生や一般市民の皆様に多数参加いただきました。

主催：大阪薬科大学、大阪薬科大学同窓会

演題：「超高齢化社会の生き方と死に方」

講師：相愛大学教授 浄土真宗本願寺派 大村 英昭 先生

日時：平成25年11月3日(日) 13:00～14:30

場所：大阪薬科大学 講堂



## ■ 日本薬剤師会学術大会に出展しました

平成25年9月22日(日)・23日(祝)にグランキューブ大阪において開催された第46回日本薬剤師会学術大会で併催された展示会に本学が出展いたしました。

地元・大阪での開催が第33回(平成12年)以来13年振りということもきっかけとなり、出展は初めての試みとなりましたが、『「深化」と「進化」を求める大阪薬科大学』をテーマにした本学ブースに受験生の保護者や学生の実習受入れ先の薬剤師の方々、多くの卒業生に立ち寄っていただき、両日とも盛況となり、用意したグッズもアッという間に品切れという状態でした。

## ■ 高槻市「健康たかつき21」第10回シンポジウムに出展しました

平成25年9月21日(土)に高槻市立生涯学習センターにおいて開催された高槻市主催の「健康たかつき21」第10回シンポジウムの活動展示会に出展しました。シンポジウムでは、「がんを遠ざける生活習慣」をテーマとした講演会や対談も催され、大変盛況でした。

## ■ 高槻市「食育フェア2013」に出展しました

平成25年11月10日(土)に高槻市立第一中学校において開催された高槻市主催の「食育フェア2013」に出展し、本学の「食」に関する取り組みについて紹介しま

した。食育を広く市民に啓発する事業として開催された同フェアは、当日はあいにくの空模様でしたが、約900名の参加者があり、大変賑わいました。

## ■ 生薬標本をご寄贈いただきました

本学昭和12年卒業生 故・古川 美千様のご遺族様より、故人が生前、大事に保管されていた生薬標本90本をご寄贈いただきました。この標本は、生薬標本室(C棟4階)に保管し、貴重な研究教育資料として活用させていただきます。

ご寄贈にあたり、心より御礼申し上げます。



## ■ がんプロ第3回公開シンポジウムを開催

平成25年8月30日(金)13時より、講堂において、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業大阪薬科大学第3回公開シンポジウムを開催しました。

第3回目となるシンポジウムのテーマは「がんのチーム医療と薬剤師の役割」とし、当日は200名弱の参加者がありました。今回の公開シンポジウムでは、講演のほかにキャンサーボード実演も取り入れ、よりわかりやすくご解説いただき、がん治療の中でのチーム医療の重要性、その中でのがん専門薬剤師の担う役割の重要性が参加した学生にもひしひしと伝わったようです。

## ■ がんプロ第4回公開シンポジウムを開催

平成25年12月13日(金)13時より、講堂において、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業大阪薬科大学第4回公開シンポジウムを公益社団法人日本薬学会近畿支部、神戸薬科大学との共催で開催しました。

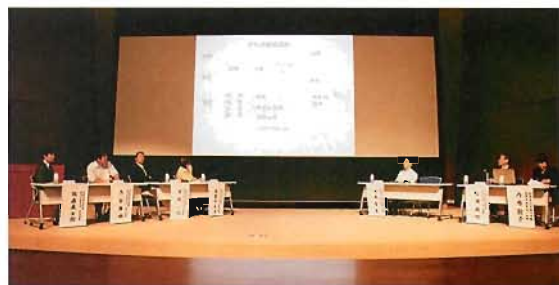
第4回目の公開シンポジウムのテーマは「がんの在宅医療における薬剤師の役割」とし、5名の講師の先生方にご講演いただきました。当日は一部の学生の試験や講義と重なったため、100余名の参加者に留まりましたが、薬学生や薬剤師の在宅医療に寄せる関心が高まって来ている昨今、薬剤師の在宅医療における役割・課題を興味深くご講演いただき、非常に意義あるものとなりました。

本学のがんプロへの取り組みが少しずつ芽を出し、やがては優れた知識、高いプロ意識を持ったがん専門薬剤師が誕生し、我が国全体のがん医療向上に寄与することを願ってやみません。

## ■ 麻薬・覚醒剤乱用防止運動

大阪大会に参加しました

平成25年11月24日(日)、大阪府主催の「平成25年度麻薬・覚醒剤乱用防止運動大阪大会」に本学学生が参加しました。当日は、式典において若手芸人たちが薬物の恐ろしさについて意見を交わし、大阪府下の薬学部学生たちが「薬物乱用、ダメ！ゼッタイ！」と大会宣言をしました。〆



がんプロ第3回公開シンポジウム



がんプロ第4回  
公開シンポジウム



〆式典終了後は、秋晴れの空のもと、ミナミの街を若手芸人と共に「みんなの力で薬物をなくそう！」と薬物乱用防止を呼びかけながらウォーキングを実施しました。

## ■ 附属薬局健康講座を開催

附属薬局において、定期的に行っている患者様向けの健康講座を下記のとおり開催しました。

今後も患者様からの貴重なご意見を参考にしながらテーマを厳選し、講座内容の充実を図る予定です。

### 《第15回》

日 時：平成25年7月20日(土)

テーマ：「膝の痛みの最新治療

～地域連携から人工関節手術まで～

講 師：社会医療法人愛仁会高槻病院

整形外科部長/関節センター長 平中 崇文 先生

### 《第16回》

日 時：平成25年11月30日(土)

テーマ：「大腸がん化学療法 最近の動向」

講 師：大阪大学大学院医学系研究科

消化器癌先進化学療法開発学 助教 工藤 敏啓 先生



## 経理課

## 平成26年度 納付金について

## &lt;薬学部納付金&gt;

## ■ 薬学科(6年制)

区 分	初 年 度			2 年次以降		
	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計
入 学 金	400,000円	—	400,000円	—	—	—
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	600,000円
合 計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。

※上記の他に、次の諸会費(代理徴収)が必要です。

学友会(学生自治会) 入会金 1,000円(初年度)・学友会費 5,000円(年額)、育友会費(父母会) 18,000円(年額)  
平成26年度入学生より、同窓会 入会金 20,000円(初年度)・同窓会費(10年分) 20,000円(6年次)

## ■ 薬科学科(4年制)

区 分	初 年 度			2・3 年次			4 年 次		
	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計	前 期	後 期	年 額 計
入 学 金	400,000円	—	400,000円	—	—	—	—	—	—
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	1,200,000円	500,000円	500,000円	1,000,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円	300,000円	300,000円	600,000円	250,000円	250,000円
合 計	1,300,000円	900,000円	2,200,000円	900,000円	900,000円	1,800,000円	750,000円	750,000円	1,500,000円

※上記の他に、次の諸会費(代理徴収)が必要です。

学友会(学生自治会) 入会金 1,000円(初年度)・学友会費 5,000円(年額)、育友会費(父母会) 18,000円(年額)  
平成26年度入学生より、同窓会 入会金 20,000円(初年度)・同窓会費(10年分) 20,000円(4年次)

## &lt;大学院薬学研究科納付金&gt;

## ■ 薬学専攻博士課程(4年制)、薬科学専攻博士前期課程(2年制)・博士後期課程(3年制) (共通)

区 分	前 期	後 期	年 額 計
入学金(初年度) 本学卒業生は免除	300,000円	—	300,000円
授 業 料	300,000円	300,000円	600,000円

※上記の他に、次の諸会費(代理徴収)が必要です。

育友会費(父母会) 18,000円(年額)

## 学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。

納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となりますので、ご注意ください  
(学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条参照)。

納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

入試課

## オープンキャンパス2013 報告

夏のオープンキャンパス2013（7/31・8/3・8/17）は、3日間で2,430名の受験生、ご父母にご参加いただき、過去最高の参加者数となりました。さらに秋（10/5）のオープンキャンパスにも420名の参加者があり、春（3/23）の160名を含めると年5回の開催で3,010名の参加者数となり、本学の大きなイベントの一つになっています。

キャンパスツアーは、D棟実習施設や図書館等を見学しながら、学生の「生の声」が聞けると受験生には大変好評でした。また、薬剤師の仕事をちょっぴり体験できる「4つの体験イベント（模擬実験）」は、今年から定員を増やしたうえで1日2回開催しましたが、午前の部はすべて満席、午後の部もほぼ満席になりました。

参加者からのアンケート結果では、お昼のランチ（ドリンク）サービスについて「家族で楽しく昼食をとれた!」「ランチがおいしかった!」と受験生、ご父母ともに大変好評でした。最近のオープンキャンパスは、ご父母の皆様にも多数ご参加いただき、受験生と一緒に楽しんでいただける本学のイベントとして定着しています。

※来春のオープンキャンパスは平成26年3月22日（土）を予定しています。



キャンパスツアー移動



本学の学生スタッフは5、6年次生を中心に元気いっぱいに来場者を迎えました

### 体験イベント（模擬実験）



バスフィスを作ろう



キャンパスツアーはオープンキャンパスの人気イベントです



顕微鏡で細胞を観察し、自分のDNAを見よう



## 学生課

■ 第67回関西薬学生連盟硬式庭球大会  
女子シングルス優勝！

硬式庭球部 1年次生 久保 和穂

今年の薬連は、石川県で8月11日から19日まで開催されました。会場に着いたときには、その大きさと独特の雰囲気によって圧倒されました。1年次生はセンターポラーに入らなければならず、体力的にもかなり厳しいものですが、できるだけ上を目指そうと思い試合に臨みました。

準決勝は、以前も試合をしたことのある先輩と、翌日に持ち越された分も含め3時間半に及ぶ試合でした。体力的にはもちろん精神的にもとてもハードだったのですが、試合が進むにつれて自分の成長を感じることができた大切な一戦でした。そして決勝では、始めから自分の思い通りのプレーをすることができたので、

試合をしていて楽しかったのを覚えています。勝つときは本当に嬉しかったのと同時に、緊張から解放されてとてもほっとしました。

ポラーをしてくれた同年次生やチェンジコートの際にアドバイスをくださった先輩方、応援して下さった硬式庭球部全員に感謝しています。



(左：山口万穂③ 右：久保和穂①)

「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成25年度）

◎関西薬連大会

部名	団体	個人
硬式庭球部	男子	8位 シングルス／4位：藤川朋哉③
	女子	優勝 シングルス／優勝：久保和穂① 3位：山口万穂③
硬式野球部		2位
	サッカー部	優勝
柔道部	男子	3位 個人有段の部／3位：松井幹太③ 個人無段の部／3位：若竹綾②
	女子	—
ソフトテニス部	男子	3位 ダブルス／ベスト4：梅本康平①・飯田侑樹①
	女子	3位 ダブルス／ベスト4：岡本智児③・栢川真由美③
卓球部	男子	ベスト8 シングルス／ベスト4：杉浦裕磨①
	女子	ベスト8
バドミントン部	男子	14位 新人戦シングルス／ベスト8：古道都希①
	女子	9位 ダブルス／ベスト4：河村佳奈④・松本奈津希④ 新人戦シングルス／ベスト3：野田実希①
バレーボール部	男子	8位
	女子	4位
陸上競技部	総合	7位 男子走り高跳び／優勝：久藤優① 男子100m／3位：高嶋和也②

◎全国薬連大会

部名	団体	個人
剣道部	男子	ベスト8
	女子	—
ソフトテニス部	男子	予選リーグ敗退
	女子	決勝リーグ6位 ダブルス／ベスト4：廣瀬恵美③・藤永穂②
バスケットボール部	男子	予選敗退
	女子	ベスト8

注) ○内は学年

## ■ 平成 25 年度父母懇談会

今年で 7 回目の父母懇談会が開催されました。10月12日(土)から11月16日(土)にかけて、学外 4 会場と本学の計 5 会場に、約 310 名のご父母が参加されました。

各会場においては、大学から教務関係、学生生活関係、就職・進路関係について説明を行い、その後、質疑応答を行いました。本学会場ではアドバイザーとの面談も実施し、65 組のご父母が担当アドバイザー等と面談されました。



父母懇談会 大阪(梅田)会場

## 奨 学 生 状 況

平成25年10月1日現在

### 1. 日本学生支援機構

区 分		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院 (博士前期課程)	大学院 (博士後期課程)	大学院 (4年制課程)	合計
第一種	人 数	60	48	42	44	44	33	5	3	1	280
	月 額	30,000円*又は54,000円 30,000円*又は64,000円						50,000円* 又は 88,000円	80,000円* 又は 122,000円		
第二種	人 数	70	84	81	99	78	62	3	0	0	477
	月 額 (薬学課程増額月額)	3万・5万・8万・10万・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万円の増額可)						5万・8万・10万・ 13万・15万円から選択			
合 計		130	132	123	143	122	95	8	3	1	757

\*印の金額は、平成21年度採用者から選択可

### 2. 本学独自の奨学金制度

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
大阪薬科大学一般奨学金	30,000	41	6	5	4	1	3	2	62	給付
大阪薬科大学特別奨学金	50,000	11	11	4	3	1	0	1	31	貸与
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000又は80,000	0	4	2	2	3	3	0	14	貸与
合 計		52	21	11	9	5	6	3	107	

### 3. その他の育英・奨学会

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000	0	0	0	0	1	1	0	2	貸 与
(公財)小野奨学会	学 部 30,000 大学院 60,000	6	8	5	11	9	7	1	47	給 付
(公財)佐藤奨学会	25,000	1	0	0	0	0	1	0	2	給 付
公益信託鈴木万平記念薬学奨学基金	50,000	0	0	0	0	1	0	0	1	給 付
(公財)大東育英会	20,000(H24年度~) 15,000	0	0	0	1	0	0	0	1	給 付
(公財)河内奨学財団	40,000	0	2	0	0	0	0	0	2	給 付
(公財)山口県ひとづくり財団	52,000	0	0	0	0	1	0	0	1	貸 与
合 計		7	10	5	12	12	9	1	56	



## ■ 人権講演会を終えて

人権委員長 教授 松島 哲久

本年度も人権委員会主催のもと、10月25日(金)13時から14時30分まで講堂で、奈良県立医科大学の御興久美子先生を講師としてお迎えして、「大学のハラスメントについて」という演題で人権講演会を開催することができました。この講演会は、同時に、「医療総合人間学3(総合人間学/コミュニケーション学)」の講義の一環としても行われました。御興先生は一昨年も本学で講演していただいております。現在、奈良県立医科大学女性研究者支援センターの特任教授をなさっています。

講演は、ハラスメントとは何かということから始まり、全国の大学におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの事例を取り上げながら、それぞれにおいてどのようにハラスメントが行われたのか、そして大学の対応はどうであったかについて、非常に分かりやすく説明されました。それに引き続き、ハラスメントを実際に受けたときには具体的にどのように対処したらよいのか、そして加害者にならないためにはどうしたらよいのかということについて説明され、最後に、被害を受けている人が周囲にいたら、見て見ぬふりはしないで、一緒に支援の方法を考えてみるよう呼びかけられて講演を締めくくられました。

学生諸君のなかには、初めてハラスメントについて聞いた学生もいたかと思えます。そして具体的にハラスメントの事例をこれほど詳しく解説されて聴いたり、読んだりしたことのある学生諸君はそれほど多くはなかったかと思えます。学生の立場に立って話される先生の熱意が会場全体に伝わるなか、ハラスメントについて学生諸君は、一人ひとりが自分のこととして先生の



人権講演会 御興久美子先生

講演を受け止めながら聴いていたように感じました。講演後も、何人かの学生諸君が先生のところにやって来て、熱心に質問している姿を目の当たりにして、講演の有意義さを深く感じ取ることができました。

御興先生に心から感謝申し上げたいと思います。



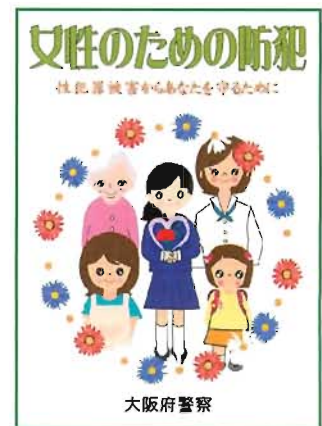
## ■ 女性被害相談窓口開設のご案内

学生課に、女性被害相談窓口が新たに設置されました。

女性被害相談窓口とは、大阪府警察本部が中心となり、大阪府下の他大学とも連携して性犯罪、性暴力(つきまとい、露出狂、盗撮なども含む)の被害に遭った女性の相談を受ける窓口のことです。

なお、相談には女性相談員が対応します。「ただ、話を聞いてほしい」、「被害届を出したい」など、その学生さんの意思を尊重します。

また、希望に応じて適切な他機関(医療機関など)を紹介することもできますので、誰にも相談できず、ひとりで悩んでいる方は、良かったら一度相談に来てください。



## ■ 献血者の推移

毎年5月と11月の年2回、大学構内において献血を実施していますが、献血者の人数が減少傾向にあります。

医学が進歩した現代においても、人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は人工的に造ることはできません。現在の医療現場では必要とされる血

液製剤の数が不足していますので、皆様のご協力をお願いします。

実施日	200cc	400cc	合計
H25.11. 5(火) (受付数)	3 (4)	16 (26)	19人 (30)
H25. 5.30(木) (受付数)	11 (16)	24 (29)	35人 (45)
H25. 5.29(水) (受付数)	11 (17)	41 (53)	52人 (70)
H24.11.29(木) (受付数)	16 (26)	45 (69)	61人 (95)
H24.11.27(火) (受付数)	11 (22)	35 (53)	46人 (75)
H24. 5.29(火) (受付数)	15 (24)	51 (78)	66人 (102)
H23.11.22(火) (受付数)	18 (21)	52 (66)	70人 (87)
H23. 5.25(水) (受付数)	27 (40)	59 (85)	86人 (125)

※受付数は、受付時の検査で血液の比重不足等により献血できなかった人を含んだ人数です。



～健康管理支援室だより～

《視力矯正用コンタクトレンズについて》

\*コンタクトレンズは薬事法で『定期的な検査や適切な処方と使用方法が必要とされる高度管理医療機器(クラスⅢ)』に指定されています。

【種類／特徴】

- **ハードコンタクトレンズ** 素材が硬く、角膜よりひとまわり小さいレンズ、装着時に違和感があり、瞬きや運動時にレンズが動くためずれやすい。角膜障害が重度になることが少ない(角膜異常がある場合、痛みで装着できない)。取り扱いが容易で適切な使用方法を保てば長期間使用できる。
- **ソフトコンタクトレンズ** 角膜より大きく、角膜全体を覆うように装着するレンズ。素材が柔らかく弾力性があるので装着時の違和感が少ない。装着時にレンズが折れ曲がったりしやすいので損傷しやすい(特に乾燥すると脆弱)。長期間使用タイプの物は頻繁な洗浄と定期的な消毒が必要である。

使い捨てレンズは正しい使用方法を厳守すること(眼からの分泌物でレンズが汚染され、眼障害が重度になりやすい)。

【コンタクトレンズによる眼障害】

- ★ **角膜上皮障害** 長時間の装着により角膜に負担が生じたり、レンズの汚れ等により角膜上皮がキズついたり、上皮細胞が剥がれたりする。痛み、違和感等の自覚症状には受診してください(上皮細胞は一週間程で再生するので完治します)。
- ★ **角膜内皮障害** 長年の使用による酸素不足等により内皮細胞が代謝障害で、脱落したり変形したりする。内皮細胞は再生しないので、減少により角膜が混濁したりする。
- ★ **巨大乳頭性結膜炎** レンズの汚れによるアレルギーで上瞼の結膜が充血し、ぶつぶつした乳頭ができ炎症を起こす。かゆみがあり眼やにが出ます。
- ★ **細菌性角膜潰瘍** 角膜上皮にキズができ細菌、カビにより感染し潰瘍を起こします。治りにくく混濁や視力障害を起こします。
- ★ **アcantアメーバー角膜炎** 汚れた淡水や土の中に



いるアカントアメーバがレンズに付いて角膜上皮にキズがある場合に侵入して感染を起こします。非常に治りにくく、視力障害が残ります。

★ドライアイ（角膜乾燥症） 角膜上の涙量の減少や成分の変化により起こる。レンズの装着により発症が増加する。

眼がごろごろする、光がまぶしい、眼のいたみ、視界がかすむ、眼の乾き、視力低下、眼の感染症にかかりやすい。

◎コンタクトレンズは、生命及び健康に重大な影響を与えるリスクがある。つまり適正に使用しなければ眼障害等や最悪の場合失明することもあり得る。

#### 【装用時の注意】

- ・レンズ購入時は眼科を受診し、眼科医の指示を守ること。
- ・取扱い方法、装用方法、装用サイクルを守ること。
- ・定期健診を受けること。
- ・適切なレンズケアを行うこと（レンズに合ったクリーナー/保存液を使用）。
- ・レンズの脱着時は必ず手洗いをする。
- ・レンズケースを洗浄し乾燥させる。
- ・濃いアイメイクはしない。
- ・常にレンズケースや保存液を持参すること。
- ・レンズや眼に関する物は他の人と共有しない。

#### 高度管理医療機器

日本では厚生労働省告示により下記の通り既存の医療機器が分類されています。

##### クラスⅠ：一般医療機器

- ・不具合が生じても人体への影響が軽微であるもの  
〈聴診器/水銀柱式血圧計/X線フィルムなど〉

##### クラスⅡ：管理医療機器

- ・人の生命の危険又は重大な機能障害に直結する可能性は低いもの  
〈電子体温計/電子式血圧計/電子内視鏡など〉

##### クラスⅢ：高度管理医療機器

- ・不具合が生じた場合、人体への影響が大きいもの  
〈透析機器/人工骨頭/血管用ステンレスなど〉

##### クラスⅣ：高度管理医療機器

- ・患者への侵襲性が高く、不具合が生じた場合、人の生命の危険に直結する恐れがあるもの  
〈ペースメーカー/中心静脈用カテーテル/吸収性縫合糸など〉

\*副作用、機能障害などの不具合が生じた場合、人の生命、健康に重大な影響を与える恐れがあるとして、もっとも危険度が高いとされています。

参考資料：日本コンタクトレンズ協会 HP/日本コンタクトレンズ学会緊急レクチャー等

#### ★使用方法の確認をしよう！ コンタクトレンズの適正使用チェックリスト

眼障害のリスクがある不適正な使用	チェック	何が問題なの？
眼が痛くても、すぐに眼科を受診しなかった。		眼障害の場合もあるので、早期の受診が大事です。
充血や異物感等の自覚症状があっても我慢して装用していた。		充血や異物感等は、障害の注意信号です。
終日装用レンズで、装用したまま寝てしまった。		黒目（角膜）に酸素が供給されにくくなり、障害を起こす恐れがあります。
定められた使用期間が過ぎても使用している。 例：1日使い捨てレンズを3日間も使用 例：2週間交換レンズを3週間も使用		汚れの蓄積や、レンズの破損・変形などにより、眼障害を起こす恐れがあります。
レンズの保存に水道水を使用している。		レンズが変形、変質したり、細菌や原生動物のアカントアメーバがレンズに付着し、黒目に感染する恐れがあります。指定の保存液をご使用ください。
消毒液は毎日交換していない。		消毒効果がなくなり、細菌等が繁殖する恐れがあります。
こすり洗いが必要なのにしていない。		こすり洗いしないと汚れや細菌等が十分に落ちません。
レンズケースは洗わないし、洗っても乾燥させていない。		レンズケースは汚れが付着したり、細菌等が繁殖する恐れがあるので、毎日、洗って乾燥させることをお勧めします。
レンズケースを定期的に新しく交換していない。		レンズケースは汚れが付着したり、細菌等が繁殖する恐れがあるので、数ヶ月毎に新しくすることをお勧めします。
定期的に眼科を受診していない（定期検査を受けていない）。		目に自覚症状がなくても知らない間にレンズにキズがついたり眼障害が起こっていることがあります。異常がなくても眼科医に指示された定期検査を受けましょう。

## キャリアサポート課

## 只今、職種紹介用 DVD 作成中！

現在、キャリアサポート課では職種紹介用の DVD を作成致しております。

この DVD は、学生が企業経営と職務の一端を理解し、入社後のイメージを明確に持つことにより、ミスマッチの無い職業選択をすることを目的として作成致しております。

取材先は卒業生が勤務する15施設を対象にしています。

完成すれば、低年次生が視聴でき、早期に薬学分野のキャリアパスの全体像をつかみ、各職種に対するイメージを明確に描けるようになることを想定しています。

キャリアサポート部・課では、学生の指導に際し、何よりも学生一人ひとりの意思を大事にし、潜在的な能力を引き出すと共に適性をよく見極めたうえで「就職におけるミスマッチを無くす」を掲げて活動しています。キャリアサポート DVD（職種紹介）では、「学生

の憧れ」と「社員（卒業生）のやりがい」を橋渡しして、学生のキャリアサポートを推進して参ります。

DVD では、取材をした卒業生から在学生の皆様へのメッセージがあります。いろいろな分野で活躍する卒業生からの生の声をしっかりと受け止めれば、先入観で求人先を判断することは軽減されると思います。ぜひ完成をご期待ください。

## 就職先決定の優先順位は？

- ・ プライド
- ・ 国試
- ・ 10年後の自分
- ・ 勤務地
- ・ 希望職種
- ・ プライベートタイム
- ・ 収入
- ・ 友達



## 教務課

## ■ 学位授与

## 博士(薬学)

[博士(課程)] 男子0名 女子1名 合計1名

博第24号 博士(薬学) 三木春奈

嚢胞性線維症膜透過性制御因子の疾患関連変異体の活性増強薬の開発に関する研究

(平成25年10月7日付)

## [博士(論文)]

論博第66号 博士(薬学) 宮地加奈子

機能性色素と金属イオンを用いる病態関連物質の分析法の開発に関する研究

(平成25年7月16日付)



## 図書・情報課

## 「図書課」の改組について

平成25年10月1日付で事務組織の改組があり、図書課と情報システム管理支援室が統合され、新たに「図書・情報課」が設置されました。

「図書・情報課」に関する全ての業務は、これまで図書課があったA棟3階図書館事務室において一括して行っています。

なお、IDパスワードの再発行等、情報システム管理に関する業務の取扱いについては原則として月曜日から金曜日の午前9時から午後4時30分までとし、土曜日は従来どおり取り扱いませんので注意してください。



## 個人机仕切板の設置について

より快適な学習環境をめざし、平成25年10月1日に、図書館閲覧室の窓際に配置されている個人机の右側面にアクリル製仕切板を設置しました。これにより机の真近を通行する人を気にすることなく学習ができ

るようになり、少しでも皆さんの学習効果が上がることを期待しています。



## 図書館プリントシステムについて

図書館プリントシステム（3階に設置）は、平成23年度に導入されましたが、大学からの補助金額の拡充やプリント料金の値下げにより、学生の利用状況は順調に推移しており、学生のレポートや課題、授業関連資料の印刷等に幅広く利用されています。

なお、平成25年10月現在の平成25年度利用状況は次のとおりです。

## 平成25年度図書館プリントシステム利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
モノクロ	883	1,422	1,598	1,537	688	791	1,935	8,854
カラー	176	287	548	590	84	1,077	1,494	4,256
計	1,059	1,709	2,146	2,127	772	1,868	3,429	13,110

## 図書館への寄贈資料一覧

平成24年度以降の図書館への寄贈資料を一覧表にまとめました。

各ご寄贈に対し厚く御礼申し上げます。

寄贈された資料は、本館の所蔵資料として大切に保管し、寄贈の意図に添いたいと思います。

寄贈日	寄贈者氏名(敬称略)	寄贈資料名	所蔵場所
平成24年7月12日	川島 康生	「Circulation Journal」 vol.74 (2010) ～vol.76 (2012)	第4閲覧室
平成24年10月10日	羽田 同	「新型インフルエンザ、パンデミックの黙示録」	第3閲覧室
平成25年2月1日	結城 研一	「私の陶磁器手帳」	第2閲覧室
平成25年6月12日	賀澤 知栄子	「中国医学大辞典」全4巻他(計38冊)	第4閲覧室
平成25年7月14日	岡 源郎	「続・薬はなぜ効くのか? 「Q&A」で知る薬の働き方」	第2閲覧室
平成25年10月1日	辰馬 禎子	「症状からひく薬の副作用」他(計71冊)	第3閲覧室
平成25年10月25日	入江 良行	「昭和エーテル80年史」	第4閲覧室

## 第3回「学生選書」図書案内

以下の新着図書は、第3回「学生選書」（平成25年9月30日～10月4日実施）による図書（109冊）のうち、学生からの「推薦コメント」が添えられているものです。「推薦コメント」にあるように、学生目線から選ばれたラインアップとなっていますので、大いに活用してください。



「学生選書」コーナー

## &lt;教養図書&gt;

No.	書名	著者名
①	暗黒女子	秋吉理香子
②	UNTITLED	飛鳥井千砂
③	大泉エッセイ僕が綴った16年	大泉 洋
④	けさくしゃ	畠中 恵
⑤	高校入試	湊 かなえ
⑥	死神の浮力	伊坂幸太郎
⑦	社会人大学人見知り学部卒業見込み	若林正恭
⑧	世界地図の下書き	朝井リョウ
⑨	想像ラジオ	いとうせいこう
⑩	たぶんねこ	畠中 恵
⑪	残り全部バケーション	伊坂幸太郎
⑫	ドイツ参謀本部その栄光と終焉	渡部昇一
⑬	人間にとって成熟とは何か	曾野綾子
⑭	一千一秒物語	稲垣足穂
⑮	インビジブルレイン	菅田哲也
⑯	劇場版 ATARU	櫻井武晴
⑰	そして父になる	是枝裕和
⑱	眠れないほど面白い「古事記」	由良弥生
⑲	平台がおまぢかね	大崎 梢
⑳	吾輩は猫である	夏目漱石

## &lt;学術図書&gt;

No.	書名	著者名
①	くすりの地図帳	伊賀立二
②	史上最強図解これならわかる！薬理学	丸山 敬
③	知っておきたい栄養学	白鳥早奈英
④	生薬学へのいざない生薬学は今日の医療にどう役立つのか	伊藤美千穂
⑤	生物系薬学4（スタンダード薬学シリーズ）	日本薬学会
⑥	生命分子を統合するRNA その秘められた役割と制御機構	塩見春彦
⑦	ぜんぶわかる脳の事典	坂井建雄
⑧	大麻 光と闇	山本郁男
⑨	PCR実験なるほどQ&A	谷口武利
⑩	病気がみえるVOL.6（免疫・膠原病・感染症）	医療情報科学研究所
⑪	病態からみた漢方薬物ガイドライン	岡村信幸
⑫	図解・プレートテクトニクス入門	木村 学
⑬	2ページで理解する標準薬物治療ファイル	日本アプライド・ス協会
⑭	勉強したい人のための有機化学のきほん	齋藤勝裕
⑮	マンガでわかる有機化学	齋藤勝裕
⑯	名医が伝える漢方の知識	丁 宗鐵
⑰	薬学・生命科学のための有機化学・天然物化学	サティアジツト・D.サーカー

## &lt;実用図書&gt;

No.	書名	著者名	No.	書名	著者名
①	イングリッシュ・モンスター最強英語術	菊地健彦	⑥	新 TOEIC テストでる模試600問	
②	美しくなるランナー食ももっと走れる！からだの中からきれいに	虎石真弥	⑦	新 TOEIC テスト直前の技術（テクニク）	ロバート・A・ヒルキ
③	お医者さんが教える「いい眠り」で、キレイになる本	林田健一	⑧	ずぼら式3分クッキング	
④	面白くて眠れなくなる理科	左巻健男	⑨	2ヶ月で攻略新 TOEIC テスト730点	橋本勝也
⑤	新 TOEIC テスト「直前」模試3回分	ロバート・A・ヒルキ	⑩	まいにちのお菓子づくり季節を楽しむ100レシピ	本間節子

■展示場所：新着図書コーナー裏面の書架付近（3階）

■学生選書：他の図書と区別するため背表紙に黄色のシールを貼り付けています。



# 第2回 大阪薬科大学

# 学術講演会

# in 東京

**日時** 2014年2月16日(日)  
14:00~17:00

尚、17:00より懇親会を致します。

**場所** 八重洲富士屋ホテル

東京都中央区八重洲 2-9-1 TEL 03-3273-2111

**特別  
講演**

超高齢化社会の医療における薬剤師の役割

公益社団法人 東京都薬剤師会 会長 山本 信夫 先生

座長：帝京平成大学 教授 森本 一洋 先生（大阪薬科大学S48年卒）

**招待  
講演**

薬局漢方の歴史と展望

日本薬科大学 学長 丁 宗鐵 先生

座長：日本薬科大学 教授 木村 正幸 先生（大阪薬科大学S45年卒）

学術講演会参加費：無料

懇親会参加費：8,000円

定員：100名（先着順）

問合先：大阪薬科大学同窓会事務局

TEL/FAX 072-690-1099

E-mail: dosokai@gly.oups.ac.jp

（日本薬剤師研修センター受講シール1点申請中）

●主催

大阪薬科大学

大阪薬科大学同窓会

●後援

公益社団法人

日本薬剤師会

公益社団法人

東京都薬剤師会



## 薬 用 植 物 の 紹 介

ウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marcowicz (ミカン科)

薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

ウンシュウミカンは、江戸時代に鹿児島県長島で栽培されていたミカンの類から、枝変わりにより種のない品種が偶然でき、接ぎ木によって増やされたものとされている常緑の低木又は小高木である。葉は互生し、葉柄は短く翼があり、葉身は卵形楕円形で葉先が尖る長さ10cmの革質で、花は白色で爽やかな芳香があり、初夏に開花する。液果は長径約8cmの扁球形で果頂は平坦で熟すと橙黄色になる。これが皆さんが冬によく食べる果物で、通常ミカンと呼ばれている。ミカンは「蜜のように甘い柑橘」から略されて「蜜柑（みつかん）」となり、それが変化したものと考えられている。また、ウンシュウ（温州）は、諸説有るが、中国浙江省の温州が柑橘類の名産地であることにちなんで名付けられたとされている。ちなみに、欧米では原産地である鹿児島にちなんで「サツマ」や「サツマオレンジ」と呼ばれている。江戸時代は甘くて美味しい果実だが種子が出来にくいことから子宝に恵まれないと敬遠されていたが、明治頃からは甘くて種のない利便性から全国的に普及するようになった。この果皮を天日干し（火力乾燥だと短期間で精油成分が揮発するため）で乾燥させたものが生薬の陳皮（ちんぴ）である。陳皮は神農本草経の上品に「橘柚（きつゆ）」として記載され、健胃消化薬や鎮咳去痰薬とみなされる漢方処方などに比較的高頻度で配合されている。麻黄と同様に古いものほど効果が高いとされる六陳（りくちん：枳実、陳皮、麻黄、半夏、狼毒、莫菜萸）の一つでもある。七味唐辛子の構成原料の一つでもある。日本薬局方では、陳皮の基原植物として国内産のウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marcowiczと中国産の *Citrus reticulata* Blancoに限定している。

含有成分の主なものは、精油の(+)-リモネン、フラバノン配糖体のヘスペリジン、ナリルチン、ネオヘスペリジン、クマリンのオウラプテン、イソインペラトリン、アルカロイドのシネフリンである。日本薬局方では、ヘスペリジン4.0%以上を含むと規定されている。陳皮の煎液はパプロフの小胃造設イヌに空腹時経口投与又は舌表面及び口腔粘膜塗擦で軽度の胃液分泌作用、リパーゼ作用の亢進を示し、水性エキスはラット経口投与により受身皮膚アナフィラキシー反応を抑制する。主精油成分の(+)-リモネンには鎮静作用、中枢抑制作用、各種平滑筋収縮作用、胆汁分泌促進作用、生体腸管運動促進作用、肝・血清コレステロール



量低下作用などを示し、ヘスペリジン、ナリルチン、ネオヘスペリジンにはヒスタミン遊離抑制作用を示す。また、シネフリンには交感神経興奮作用があり、血圧上昇作用、気管支拡張作用を示す。漢方処方陳皮は、健胃、鎮咳去痰などの作用が期待される胃苓湯、香蘇散、二朮湯、二陳湯、平胃散、補中益気湯、六君子湯などの多くの処方に配合されている。

フラバノン配糖体のヘスペリジン、ネオヘスペリジン、ナリルチン、ナリンギンはミカン科 *Citrus* 属果実の常成分であり苦味を有する。また、抗炎症作用を示すことより、これらの果実をサプリメントとしても用いられている。代表的なものとしてヘスペリジン含有量の多い時期であるウンシュウミカンの未熟果実がある。また、和歌山県東牟婁郡北山村で発見されたジャバラ (*Citrus jabara*) は他の柑橘類とは異なり、ほぼナリルチンのみを高含量で含有し、近年、花粉症などのアレルギー症状の人の間で話題となっている。

最後にミカンの各部位の名称を紹介しておく、一番外側の果皮の黄色い部分を「フラベト」、果皮の白い部分を「アルベト」、袋を「じょうのう」、じょうのうの中の小さい涙型の袋を「さじょう」と言う。また、へたを取ると小さな点が丸く並んでいるのが見えるが、これが維管束で枝から果実に栄養を運ぶ道であり、この点一つがじょうのう一つに対応しているため、皮を剥く前にじょうのうの数分かる。次にミカンを食べるときには一度試してみてください。

(写真撮影：芝野真喜雄准教授)

